

第十七章 前置詞

レクチャー1

前置詞の文中での働き[用法]。

(1)前置詞とは。

前置詞とは「名詞の前に置く詞(ことば)」という意味で、基本的に必ず後ろに名詞(または代名詞・動名詞などの名詞の仲間)を必要とします。そして前置詞の後ろに置かれる名詞(とその仲間)のことを「前置詞の目的語」と言います。

☞前置詞の後には基本的に「名詞の仲間(名詞、代名詞、動名詞等)」しかこない。「S+V」や動詞等はこない。to不定詞もこない。

ですからこれから文中で前置詞を発見したときは、必ず前置詞とそれが導く名詞(前置詞の目的語)をワンセットでとらえるようにしてください。

(2)「前置詞(+名詞)」の働き[用法]。

①「前置詞+名詞」は文の主要素にはならない

ではその「前置詞+名詞」は文中でどのような働きをするのでしょうか。

まず大前提として「前置詞+名詞」は、S(主語)、O(目的語)、C(補語)といった文の主要素になることは(基本的に)ないという点をおさえましょう。

②「前置詞+名詞」の2つの働き[用法]

「前置詞+名詞」の文中での働きは以下の2つです。

1.(直)前の「名詞」を修飾する ☞ 形容詞と同じ働きなので、このような「前置詞+名詞」を「形容詞句」と言う。

(ex) a bag on the table テーブルの上のカバン

↑
前置詞+名詞

上の例では、on the table は直前の名詞(bag) を修飾していますね。

(ex) the influence of the East on the West 西洋に対する東洋の影響

↑ ↑
前置詞+名詞 前置詞+名詞

上の例では、of the Eastもon the West も共に the influenceを修飾していますね。このように、場合によっては「前置詞+名詞」が、直前よりもっと前の名詞を修飾することもあります。

2. 「名詞」以外を修飾する ☞ 動詞を修飾することが多い。

修飾副詞と同じ働きなので、このような「前置詞+名詞」を「副詞句」と言う。

(ex) I went to school. 私は学校に行った

↑
前置詞+名詞

上の例では、to schoolは、動詞の went を修飾していますね。

この2つの用法のうち、実際の英文でどちらの用法の「前置詞+名詞」が多いかという、それは圧倒的に1.の方です。したがって英文中で「前置詞+名詞」に出会ったら、

①まず(直)前に修飾できそうな名詞がないかどうか探してみる。

↓

②もしあればその名詞にかけて訳してみる。それで意味がおかしければ、あるいは修飾できそうな名詞がなければ、名詞以外を修飾していると判断して、他に修飾できそうな語句(動詞・形容詞・文全体など)を探す。

☞「他に修飾できそうな語句」では、「動詞」を修飾していることが最も多い。

このやり方で、文中の「前置詞+名詞」の訳し方がかなりスピードアップするはずですよ。

レクチャー2

「前置詞+名詞」の例外的な働き[用法]。

レクチャー1で述べたことはあくまで文法上の基本ルールで、「前置詞+名詞」の文中での働き[用法]にもいくつかの例外があります。以下にそれを整理してみました。

(1) 「前置詞+名詞」が主語になることがある。

(ex) From New York to Chicago made me exhausted.
S V O C ㊦ make O C:OをCにする
ニューヨークからシカゴまでの移動でヘトヘトになった

上の英文では、from New York to Chicago の部分全体がS(主語)になっています。

(2) 「前置詞+名詞」が補語になることがある。

(ex) He was in good health.
S V C
彼は健康だった

上の英文の in good health はCと見るのが自然です。その理由は、in good health は healthy(健康な) という形容詞と意味的にイコールであり、

He was healthy.

と書けば「SVC」で、healthy を in good health に書き換えたなら意味が同じなのに「SVC」ではないと屁理屈をこねるのもあまりに杓子定規(しやくしじょうぎ)で合理的でないからです。

また「前置詞+名詞」は with O C の「C」になることもあります。

(ex) He was there with his hands in his pockets.
O C
彼はポケットに手を入れてそこにいた

(3) 「前置詞+名詞」が接続詞になることがある。

つまり「前置詞+名詞」が後ろに「S+V」を従えて副詞節になることがあるのです。しかしそのような「前置詞+名詞」は以下に限られ、決まり文句として覚えた方が良いでしょう。

① by the time S+V ~ 「Sが~する頃までには」

(ex) I will have finished my work by the time she comes here.
彼女がここにくるころまでには仕事を終えてしまっているだろう

- ② for fear S + $\left. \begin{array}{l} \text{will[would]} \\ \text{may[might]} \\ \text{should} \end{array} \right\} + V \sim$ 「Sが～するといけないので」
「Sが～しないように」

(ex) You'd better insure your office for fear there should be a fire.

火災に備えて事務所に保険をかけた方がいい

- ③ in case S+V～

1. 「もし～なら」

(ex) In case anything happens, call me immediately.

もし何かあったら、すぐに電話してください

2. 「～の場合に備えて、～するといけないので」

(ex) You had better take an umbrella in case it rains[should rain].

(万一)雨が降るといけないから傘を持っていきなさい

(4)前置詞の後ろに「名詞(の仲間)」以外が来ることもある。

(ex) We looked on Mr. Baker as great.

(形)

我々はベイカー氏を偉大だとみなした

Jack returned from abroad.

(副)

ジャックは海外から戻ってきた

Jim was given up for lost.

(分)

ジムは死んだものとしてあきらめられた

A cat appeared from behind the curtain.

(前)

(名)

一匹の猫がカーテンの後ろから現れた

I am far from (being) satisfied with the result.

(分)

私はその結果には全く満足していない

☞ 前置詞の後ろに「前置詞+名詞」がくることがある。
これを二重前置詞と言う。

Q. The plane flew (on / over) my house.

上の問題の正解は over です。

on にしてしましまうと、on は「接触」を表すので「その飛行機は私の家に接触して飛んで行った」ということになってしまいます。over なら「(離れて)真上に」という意味なので、「その飛行機は私の家の上空を飛んで行った」となって文意に合います。

Q. There is a waterfall (over / above) the bridge.

上の問題は正解は above です。

over にしてしましまうと、「その橋の真上に滝がある」となってしまいます。そんな橋は渡ることはできませんね。above なら「漠然と位置が上の方に」という意味なので、「その橋の上流に滝がある」となって文意に合います。

(2) 紛らわしい用法や、意外[特殊]な意味・用法を問うもの。

Q. The boys played baseball in the playground () the afternoon.

- ① for ② during ③ among ④ between

上の問題の正解は②です。すべての選択肢が「～の間」と訳せますが、during は後ろに「具体的な出来事や期間を表す名詞」が来るのが特徴です。①の for の場合、後ろには「数詞などを伴った期間を表す名詞」が来ます。③と④は、「物理的位置関係」や「分布」における意味での「～の間」という意味です。

Q. He sometimes sleeps () his assignment.

- ① for ② over ③ to ④ with

上の問題の正解は②です。over には「～しながら」という意味があるので、問題文の意味は「彼は宿題をしながら眠ってしまうことがある」となります。

(3)前置詞を用いた慣用表現・イディオムを問うもの。

Q. I don't like those people who see life () money.

- ① in terms of ② in spite of ③ in case of ④ in need of

上の問題の正解は①です。in terms of Aで「Aの観点から」という意味のイディオムです。問題文の意味は「私はお金の観点から人生を見る人は嫌いだ」となります。ちなみに②は「～にもかかわらず」、③は「～の場合に(備えて)」、④は「～を必要として」という意味です。

この問題の選択肢のような、2語以上が集まって1つの前置詞として働くものを「群前置詞」と言い、文法・語法問題では頻出です。

Q. We hurried to make () for lost time.

- ① up ② on ③ to ④ with

上の問題の正解は①です。make up for Aで「Aの埋め合わせをする」という意味になります。compensate for Aで言い換えることができます。問題文の意味は「失った時間を埋め合わせるために私達は急いだ」となります。

Q. () his great surprise, his house was on fire when he came home.

- ① Up ② On ③ To ④ With

上の問題の正解は③です。「To A's+感情を表す名詞」で「Aが〇〇なことには」という意味になります。「To the+感情を表す名詞+of A」という書き換えも可能です。Toの前にmuchが置かれてその意味が強調されることもあります。

= Much to his surprise, his house was on fire when he came home.

問題文の意味は、「とてもびっくりしたことに、彼が帰宅してみると自宅が火事だった」となります。

それぞれの前置詞の『核』のイメージ。

④以下では、品詞的には副詞となる用例も入っている。後ろに目的語になる名詞が付けば前置詞で、それがなければ副詞と(品詞的には)見なされるだけで、その語の持つ『核』のイメージは全く変わることはない。

ちなみに「『核』のイメージ」とは、ある語の最も根本にあるところのイメージ[意味]のこと。

(1) about

about の『核』のイメージは「**～の周辺に(で)**」です。

④ around[round] も「**周辺に(で)**」というイメージを持っているが、こちらは round に元々「丸い」という意味があるので、「**～をぐるりと取り囲むように**」というニュアンスが加わる。例をあげておこう。

(ex) There is a high wall (a)round his house.

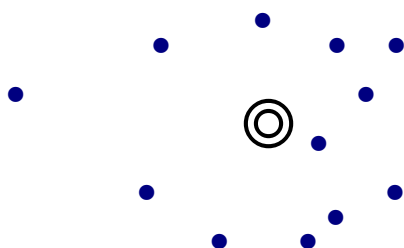
彼の家のまわりには高い塀がある

The earth moves[goes] (a)round the sun.

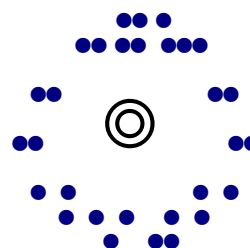
地球は太陽の周りを回っている

それに対し、about は「**点在して(拡散的に)周辺に**」というイメージ。

about のイメージ



around のイメージ



about で最も一般的な意味は「**およそ～**」「**約～**」ですが、これは元々の「**周辺**」というイメージから「(対象そのものではないが)その近いところに」という意味が生まれ、そしてそれが「**およそ[ほぼ]～**」「**だいたい～**」「**約～**」という意味に派生したもののなので、この about は、数詞などの前に置かれます。品詞的には前置詞ですが、

副詞とも考えられます。

(ex) It's about seven (o'clock).

7時ごろだ

Kim is much about my age.

キムはほぼ私と同じ年齢だ

Well done! That's about perfect.

よくやったね。ほぼカンペキだよ

It is about time you went to bed.

もうそろそろ寝る時間だよ

㊦この例文のように「およそ」には数量以外の用法もある。

「約～」 「およそ～」と同じくらいおなじみの about の意味である「～について(の)」「～に関して(の)」は、ではどこから出てきたのでしょうか。まず下の例文を見て下さい。

(ex) This is a book about cats

これはネコについての本です

「ネコについての本」といった場合、ネコそのものだけではなく、習性、種類、かわいさ…など、ネコに関連するもろもろなことが紹介されていることが予想できます。この「～についてのいろいろな」というイメージが「周り」、つまり「周辺」という about のもつ語感とつながるのです。

(ex) He completed a book about[on] animals.

彼は動物についての本を書き上げた

ちなみに about は、通例一般的な内容を扱った本について用います。on の場合、元々「接触」を表します。つまり対象との距離がより密接になるので、通例 about よりも専門的で高度な内容を含むことになります。

about には他にも、場所や位置を指して以下のような意味がありますが、これらも全て「～の周辺に(の)」という『核』のイメージから派生したものです。

① 「～のあたりに[を]」「～の近くに[を]」 ≒around

(ex) I hear the famous singer lives somewhere about here.

その有名歌手はどこかこのあたりに住んでいるそうだ

② 「～のあちこちに[を]」「～のほうぼうに[を]」 ≒around

(ex) There were a lot of toys lying about the room.

たかさんのおもちやが部屋のあちこちに散らばっていた

③ 「～のまわりに[を]」 「～の周囲に[を]」 ⇨around

(ex) There are high walls about the town.

その町のまわりには高い城壁がある

⚠ただしこの意味では aroundの方が一般的。前述のように aroundの方が「ぐるりと取り囲んで」というニュアンスが出るからだ。

更に about を用いたイディオム的な表現があります。

① be about to do[原形]～ 「まさに[今にも]～しようとしている」

(ex) The train was just about to start.

列車はまさに出発しようとしていた

これは「～するのに近いところにいる」というのが元々の意味。「近いところ＝周辺」ですね。この about は形容詞とも考えられます。

② There is something+(形)～ about A 「Aにはどこか～なところがある」

(ex) There is something strange about him.

彼にはどこか変なところがある

これは「周り、周辺」というイメージから、「あるものの周りに感じられる雰囲気」というニュアンスが生まれ、このような構文ができたのです。

(2) above

above の『核』のイメージは「～より上の方に位置している」です。

そんな above には、大きく分けて3つの意味があります。

●● above

● ●



① 「空間的な上」の above。

「空間的」な意味で用いられる場合、**真上を含めて広く[漠然と]上方の位置を示し、overとは違って「真上」である必要がないのが特徴です。**ちなみに above の反対[反意語]は below です。具体的には「**～より上に[の・で]**」「**～の上方に[の・で]**」「**～より高く**」といった意味になります。

☞ over は「真上」を示し、覆いかぶさる感を伴う。

(ex) The mountains are more than 5,000 meters above sea level.

その山脈は海拔5千メートル以上ある

☞ 「海面より下に」は below (the) sea level.

He saw an iceberg above the water.

彼は水面に出ている氷山を見た

the sky above

頭上の空

I heard a cry from above.

上からの叫び声を耳にした

② 「地理的な上」の above。

具体的には「**～の北の方に[の・で]**」「**～の上流に[の・で]**」といった意味になります。

(ex) The town lies just above Tokyo.

その町は東京のすぐ北にある

The dam is ten miles above.

そのダムは10マイル上流にある

There is a waterfall above the bridge.

橋の上流に滝があります

③ 「抽象的[比喩的]な上」の above。

具体的には以下の2種類の用法があります。

1. 優越を示す above

① 「地位が高い」

② 「重要度・価値が高い、優れた」

(ex) The tribe values[puts] honor above life.

その部族は生命よりも名誉を重んじる

A manager is above a chief clerk.

部長は係長の上司だ[よりも地位が高い]

④ above は地位の上下関係のみを示す。over の場合(その上から覆いかぶさるイメージから)「支配・監督」する意味合いも含むことになる。

As a researcher, she is far above me.

研究者としては彼女は私よりはるかに優れている

④ far は強調の副詞。

2. 超越を示す above

- ① 「 [物・事が] (人の理解など)を超えている」
- ② 「 [行為などが] (非難・疑惑など)を受けない」
- ③ 「 [人が] (高潔・善良さなどで)~を超越して、~を脱して」
「(~を)しない、(~するのを)恥とする」
- ④ 「 [量・気温・歳などが] 超えている」

(ex) This book is above me[my head, my understanding].

この本は難しすぎて私には理解できません[理解を超えています]

His brave conduct is above[beyond] all praise.

彼の勇敢な行動はどんなに賞賛してもし足りないほどだ

My husband is above telling lies.

夫はうそをつくような人ではありません

Her behavior was above suspicion[reproach].

彼女のふるまいには疑い[非難]をはさむ余地がなかった

Her father is above[over] the age of sixty.

彼女のお父さんは60歳を越えている

④ 数量のときは over や more than の方が普通。

I am above average in weight.

私は体重が平均より上です

above を用いたイディオムとして above all (things) で「とりわけ、中でも、何よりもまず」がありますが、これは「全てのことを超えて[優先して]→何よりもまず」となるわけです。

(ex) He is brave, brave and, above all, generous.

彼は強く勇敢で、そしてなにより親切だ

Above all, be careful (about) what you say.

なによりも、自分の言葉には気をつけなさい

above には「形容詞」「名詞」としての用法もありますが、全て『核』のイメージは同じです。

①形容詞の above

(ex) The above facts shows that you're wrong.

上記の事実はあなたが間違っていることを示しています

②名詞の above

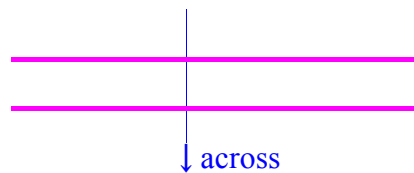
(ex) The above explains how to operate this computer.

上記のことはそのコンピュータの操作方法を説明しています

◎名詞の above は「上記[上述]のこと」という意味になる。below にはこのような名詞用法はない。

(3) across

across の『核』のイメージは「(十字[cross]になるように)~を横切って」です。つまり一方から他方への横断を意味するのが across なのです。



◎よく似た前置詞に along があるが、along は「ある方向と平行する動き」を表し、「~に沿って」という意味になる。

(ex) We walked along the bank.

私達は土手に沿って歩いた

I was wrong all along.

初めから僕が間違っていた

◎ all along で「最初から、ずっと」。直訳は「全てに渡ってずっと」。

そんな across には、大きく分けて3つの意味があります。

①「横断」の across。

(ex) I jumped across[over] a stream.

私は小川を跳び越えた

☞ across は「(表面を)横切って」(「川・通りなどを)横切って」は「～を渡って」と訳されることも多い)。over は特に「上を」跳ぶ(通過する)動作に視点が置かれる(したがって平面的なものを横切る場合には over は使えない)。

また「中を通り抜ける」場合は through を用いる(across は使えない)。

(ex) The party walked through the forest.

その一行は森を歩いて抜けた

They walked across the bridge.

彼らは橋を歩いて渡った

☞ walk across the river over the bridge の省略表現。

We flew across[over] the Atlantic.

大西洋を飛行機で横断した

The boat started to move and they were across in an hour.

ボートは動き出して、彼らは1時間で向こう岸に着いた

She helped an old man across.

彼女はそのお年寄りが渡るのを手伝ってあげた

across the country には「国を横切って」という意味以外に「国中に[で]」という意味がありますが、これは「～の端から端まで横切る → ～じゅう(～内のいたるところに[で])」という意味が生まれたのです。つまり「横断」の across の応用形です。下の例文も同じ意味の across です。

(ex) She suffered the pain across her chest.

彼女は胸(全体)の痛みを苦しんだ

②「位置」の across。

「～を渡ったところに」が基本ですが、「(平面的なものの)向こう側に[で]、越えたところに[で]」「～の反対側に[で]」といった意味にもなります。

(ex) There is a bank across the street.

通りの向う側に銀行がある

A car came from across the river.

一台の車が川の向う側からやって来た

③「交差」の across。

「横切る → 交差する」となったのですが、具体的には「～と十文字になって」「交差して」「～と交わるように」といった意味になります。

(ex) He stood there with his arms across his chest.

腕組みをして彼はそこに立っていた

☞「腕が胸を交差した状態で」ということ。

I laid two sticks across each other.

2本の棒を十文字に置いた

He sawed across.

彼はのこぎりで横びきにひいた

The bridge across[over] the river was carried away by the flood.

川に渡した橋が洪水で流された

以上が across の基本的な用法ですが、応用的な用法として「横切る」が「幅」につながり「直径で(=in diameter)」「差し渡しで、幅で(=wide, in width)」という意味になることもあります。

(ex) The pond[hole] is ten yards across.

その池[穴]は直径が10ヤードある

=The pond is ten yards wide.

また across from A で「A(人・場所など)の向かい側に、正面に」という用法がありますが、これは across the road from の短縮形です。across from を1の前置詞とみるといいでしょう。opposite (to) A で言い換えることができます。

(ex) My store is (just) across from the bank.

私の店はその銀行の真向かいです

=My store is (just) across the road[street] from the bank.

=My store is (just) opposite to the bank.

☞後ろに「具体的な場所」が来る場合には、to は省略して opposite A となるのが普通。

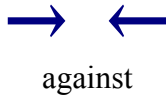
(ex) The museum is opposite the bus stop.

美術館はバス停の向かい側にあります

(4) against

against の『核』のイメージは「反発しあう力」です。

to や for が単なる方向を表すのに対して against は「向かってくる拮抗した(対立し合う)力」を表し、お互いが反発し合い、押し合いせめぎ合っているイメージです。



そんな against には、大きく 4 つの意味があります。

① 「反対・対立」の against。

具体的には「～に対立[抵抗・敵対]して」「～に反対して」「～に反して」「～を禁止して」といった意味になります。

(ex) We fought against the enemy.

我々は敵と戦った

Ken was forced to act against his will.

ケンは、自らの意志に反したふるまいをせざるを得なかった

There is a law against importing the product.

その製品の輸入を禁じている法律がある

Are you for or against our plan?

私達の計画に賛成ですか反対ですか

☞ 「～に賛成して」は for 又は in favor of.

また「反対 → 対照的・対比的」と転じ、「～と対比[比較]して」「～を背景にして(コントラストを描いて)」という意味になることもあります。

(ex) The Eiffel Tower stood out against the blue sky.

エッフェル塔は青空を背景に(コントラストを描いて)くっきりそびえていた

What is the advantage of flying against going by bullet train?

新幹線で行くのと比べて飛行機で行くことの利点は何ですか

② 「圧迫・衝突」の against。

具体的には「～に対して」「～に押しつけて」「～にもたれて」「～によりかかって」「～にぶつかって」といった意味になります。

(ex) I leaned against the wall because I was tired.

私は疲れたので壁に寄りかかった

The sport car ran against a wall.

そのスポーツカーは壁に衝突した

I placed my ear against the wall.

私は壁に耳を押しあてた

③ 「不利[益]」の against。

(ex) Despite the evidence against the accused, the judge declared him innocent.

被告人に不利な証拠があったにもかかわらず、判事は無罪を言い渡した

會 「～に有利な」は for 又は in favor of。

His age is against him.

彼は年齢の点で損をしている[彼の年齢ではだめだ]

④ 「防御・備え」の against。

(ex) We have to save money against a rainy day.

私たちはまさかの時に備えて貯金しなければならない

You should have a shot against influenza.

インフルエンザの予防注射をした方がいい

There was a notice warning against pickpockets.

すりに用心するようにとの掲示があった

(5) around

around の『核』のイメージは「周辺をぐるっと回る[取り囲む]」です。

會 「a(…の方に) + round(円・輪) → (ぐるっと)円に沿って」が語源。

round も around と同じ意味で用いられる。

そんな around には、大きく分けて4つの意味があります。

① 「周囲・円周運動」の around。

具体的には「～を一回りして」「～を巡って[回って]」「～を取り巻いて」「～の周

りで[に・を]」「～の周囲に」「(角などを)曲った所に」といった意味になります。

會このように多様な意味が生まれるのは、

① around の行為・動作の「始点～終点」全体に焦点[視点]が置かれた場合。

「～を一回りして」「～を巡って[回って]」「～を取り巻いて」

「～の周りで[に・を]」「～の周囲に」

② around した後の結果としての「終点」に焦点(視点)が置かれた場合。

「(角等を)曲った所に」

となる。

これは around 以外の他の多くの前置詞にも言え、その焦点[視点]が「始点～終点」全体に置かれているのか、結果としての「終点」に置かれているのかで、意味の違いを読み取れることが多い。

(ex) The tree is 20 feet around the root.

その木は根本の周りが20フィートだ

The research group put a manmade satellite in orbit around the earth.

研究チームは人工衛星を地球を回る軌道に乗せた

The earth revolves around the sun.

地球は太陽の周りを回る

We sat around the table.

私達は食卓を囲んで座った

He put his arms around her.

彼は彼女に両腕をまわした

We went around the corner.

我々は角を曲って行った

The church is around the corner.

教会は角を曲った所にある

There weren't enough cakes to go around.

全員に行き渡るだけのケーキはなかった

all the year around

一年中

My turn came around to sing.

私の歌う番が回ってきた

Another summer has come around.

ふたたび夏が巡ってきた

Blood flows continuously around the body.

血液は絶えず体内を循環する

②「周辺」の around。

具体的には「～の辺りで[に・を]」「～の近くで[に・を]」「あちこちで[に・を]」「約～」 「およそ～」 「～ぐらい」「～頃」といった意味になります。

(ex) The businessman travels around the world.

その実業家は世界をあちこち旅行して回っている

☞ travels around the world は「世界を1周する」という意味にもなる。

They wandered around the town.

彼らは町をあちこちぶらついた

My son left his things around the house.

うちの息子は家のあちこちに自分のものを放っておいた

The boys were always hanging around the convenience store.

その少年達はいつもコンビニのあたりをうろついてばかりいた

He lives somewhere around Nagoya.

彼は名古屋近郊のどこかに住んでいる

If you need me, I'll be somewhere around.

ご用がありましたらどこかその辺にいます

The accident happened around midnight.

その事故は真夜中頃に起きた

The Colosseum was completed around 80 A.D.

コロシウムは紀元後80年頃完成した

③「回避・迂回」の around。

「ぐるっと回って → ぐるっと迂回して、～を回避して」と転じた用法です。

(ex) We discovered a way around the difficulty[an obstacle].

我々は困難[障害物]回避の方法を発見した

There seemed no way of getting around the regulation.

その規則を逃れる方法はなさそうだった

You must go around because the road was under repair.

道路が工事中だったので、回り道しなければなりません

④「中心・基礎」の around。

go-around で「激論、論争」という意味があります。激論とは、あるテーマを中心に
なされる激しい議論のこと。このように「～の周囲」にいるということは、裏を返せ
ば、その中心を意識することにもつながります(日本語でも「お宝を巡って」などとい
う場合、お宝の周囲にいてお宝[中心の目的物]を狙う様子が表されます)。ここから
around が「(軸・理念など)を中心[基礎]にして[として]」といった意味になることがあ
ります。

(ex) This is a movie built around a new plot.

これは新しい筋をもとに作られた映画です

They established a college around Christian beliefs.

彼らはキリスト教的信条に基づいて大学を設立した

(6) as

as の『核』のイメージは、「イコール」です。

訳としては、前置詞の as は「～として[の・は]」が基本ですが、

(ex) Father treats me as a child.

父は私を子供扱いです[子供として扱う]

上例は「私=子供」として扱うということですね。

(ex) She is working as an accountant in the office.

彼女はその会社で会計士として働いている

上例は「彼女 = 会計士」として働いているということです。

as は前置詞以外にも、接続詞として後ろに「S+V」をとったり、as ~ as... という形で
原級比較においても用いられますが、そのイメージは同じです。あくまでも as という
のは、その場合も「イコール」記号なのです。たとえば

As S+V~, S+V...

S+V~, as S+V...

という英文では「S+V~」という状況[行為]と「S+V...」という状況[行為]が、(時間
的に、ある基準・やり方等において)イコール、つまり同時に存在しているということ

なのです。一番わかりやすい例は以下になるでしょう。

(ex) Six is to three as two is to one.

6対3は2対1である

要するに「6対3＝2対1」と、すぐその意味をとらえられますね。

ただこれだけではなんともまだ漠然としすぎです。また実際の英文では as は「～の時」「～ながら」「～なので」「～のように」「～だが」「～とは違って」「～けれど」…と、多様にその意味が変化します。したがって as については、より実践的な見極め法が必要になります。ではそれをまとめてみましょう。

- ①「a s S+V～」の as は、70%は「時(～の時、～ながら)」か「理由(～ので)」。
だからまず「時」「理由」で訳して、みておかしかったら(このあと説明する)それ以外の可能性を考えてみる。

(ex) As I entered the room, they ignored me.

私が部屋へ入っていったとき、彼らは私を無視した

She was crying as she ran.

彼女は走りながら泣いていた

As I didn't have any change, I couldn't call him.

小銭がなかったので、彼に電話できなかった

ただ、「時」の as が文章後半に現れた「S₁+V～, as S₂+V…」の場合、「S₁は～した。とそのときS₂は…した」と訳すという場合もあります。

(ex) They were chatting happily, as the hall door opened.

彼らは楽しげにおしゃべりをしていた。とそのとき玄関のドアが開いた

- ②「a s S+V～」の「V」が「変化」「進行」を表す動詞(又は節内で比較級が使われている)の場合には「～につれて」「～と共に[伴って]」と訳せばいい。
彙「変化」「進行」を表す動詞とは以下のようなもの。

(ex) get[become/grow等] C(形・分)「Cになる」 go 「行く」
grow up 「成長する」 pass 「すぎる」
increase 「増える」
decrease 「減る」

(ex) As it grew darker, it became colder around the lake.

暗くなるにつれて湖のあたりはいっそう寒くなっていった

③上記以外の as の意味は、「～のように[通りに・と同様に]」「～のだが」「～とは違って」。

ただし、このような意味になる場合、as の後ろの形には、以下のような特徴が見られます。

①直前と同じ形の繰り返しになっている。

②「不完全な文」になっている。

(ex) You must do the work as I do.

君はわたしがするようにその仕事をしなければならない

上の英文でも、as の前後で動詞の do が繰り返されており、更に左側の do の後ろにはあった目的語(the work)が、右側の do の後ろにはなく、as の後ろは「不完全な文」になっているのがわかります。

それから、特に「～とは違って」という意味になる場合、as の前後で「肯定」と「否定」が入れ代わることが多いのもおさえておきたいポイントです。

(ex) Men usually like baseball as women do not.

女性とは違って、男性はたいてい野球が好きだ

上の英文でも、as の後ろに「不完全な文」がある(women do not)のはカンタンにわかりますが、「ように」「だが」ではうまく訳がつながりません。そこで as の前後で like baseball に対する do not (like baseball) と、肯否定が入れ代わっている点に着目し、as を「～とは違って」と訳すといい和訳になりますね。

④また、以下のような直前の名詞を修飾する「as S + V～」もおさえておきたい。

(ex) Language as we know it is a human invention.

私たちが知っているような言語は人間の創り出したものである

上の英文では、as we know it が直前の Language を修飾しています。直前の名詞を修飾する場合、「as+形容詞・分詞」という形で使われることもあります。「as+形容詞・分詞」という形をみたら、直前の名詞を修飾しているとみたらいいでしょう。

(ex) I like Mt. Fuji as seen from Shizuoka prefecture.

静岡県から見た(場合の)富士山が私は好きだ

上の英文では、「as+過去分詞」の形をした as~prefecture が、直前の Mt. Fuji を修飾しています。

⑤ 「□ a s S + V, 」という構造になっている場合は「Sは□だけれど」と訳せばいい。

この構文の特徴をいくつかあげてみましょう。

1. □の部分には名詞、形容詞、副詞が入る。

(ex) Young as he was, he was so brave. 彼は若かったけれど、勇敢だった
(形) as S+V

2. この構文は「**Though S+V+□**」で言い換えることができる。

また「**□ though S+V**」という言い方をすることもある。

Young as he was, he was so brave.

=Though he was young, he was so brave.

=Young though he was, he was so brave.

特に「□ though S+V」は、語法問題などで「□ as S+V」同様、頻出。

(ex) Unacceptable though it may be for elderly people, young women today believe they can become happy by marrying rich men.

年配の人たちには受け入れがたいことかもしれないけれど、今の若い女性は金持ちと結婚することによって幸せになれると信じている

【解説】 Unacceptable though it may be~ が「□ though S+V」の構造になっている。この it は、後半の主節の内容を指している。

3. 場合によっては「Sは□なので」と、「理由」を表すこともある。どちらになるかは文脈で判断する。

4. □の部分に動詞(の原形)が入って「(たとえ)どんなに~しても」という意味になることもある。

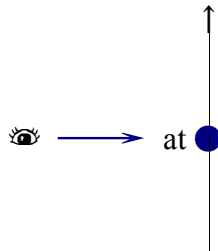
(ex) Try as she does[will/ may/ might], she will never be able to do the work well.

どんなにやっても彼女は決してうまくその仕事ができないだろう

(7) at

at の『核』のイメージは「一点」です。

つまり at とは、スタートからゴールまでの一つの道のりの中における、ある一つの地点であり、そしてそこに注目することを表すものだと考えると良いでしょう。別の言い方をすれば、「外側から全体を見渡した上で、(その中の)ある一点に焦点を絞り込む」イメージと言えます。



下の英文は、まさにそのような at の例です。

(ex) He aimed at a target.

彼は的をねらった

また at は「その一点の場所[時・状態]の中にいる」(そしてそこに焦点を当てている)という意味にもなります。下の英文はまさにそのような at の例です。

(ex) He is staying at the hotel.

彼はそのホテルに泊まっている

そんな at には、大きく分けて6つの意味があります。

①「場所の一点」の at。

具体的には「～において」「～で」「～から」といった意味になります。この at は「場所の一点」から派生して、at が「起点」を表すこともあります。

(ex) We live at 141 Merry Street.

私たちはメリー141番地に住んでいる

The hunter shot the bear at 50 paces.

そのハンターはクマを50歩離れたところから撃った

②「時の一点」の at。

具体的には「～に[で]」「～から」といった意味になります。

「時の一点」から「時間[刻]・年齢」を、さらに「順序・回数」を意味することもあります。

(ex) School is over at 5:00 p.m.

学校は午後5時に終わる

It is rather warm at this time of (the) year.

(1年の)今時分はかなり暖かい

You should know better at your age.

君の年齢ならもっと分別があるべきだ

They planted those seeds at regular intervals.

彼らは一定の間隔をおいてそれらの種を植えた

③「方向・目標」の at。

at の「一点」の『核』のイメージから、ある空間の中の(他にあるなにものでもなく)その「点(目標)」にぐっと注目し、そこに向かっていくという意味が生まれました。意図的な目標を示すため、しばしば「攻撃・敵意・非難」等の意味を含むこともあります。具体的には「～に向かって」「～めがけて」といった意味になります。

(ex) The hunter shot at the target.

そのハンターは的をめがけて撃った

The policeman pointed at[to] the building.

その警官は、その建物を指さした

☞ at は「建物そのもの」を指さす。to は「建物の位置する方向」を指さす。

④「ある時点での活動[動作]・状態」の at。

at は、「今その場[ここ]にいる」という意味から、現在[その時点]の活動・動作の様子を表すのにも用いられます。

(ex) We were at (the) table then.

その時、私たちは食事中だった

When I came into the room, she was at play[work, prayer].

私が部屋に入ったとき、彼女は遊んで[仕事をして、お祈りをして]いた

They are at lunch[work].

彼らは食事[仕事]中です

The two countries are at war.

その2カ国は戦争中だ

上の例のように、この用法の at の元では「まさにちょうどその時にある、場所にいる」といった臨場感が生まれます。

be good at A で「Aが得意だ」というイディオムがありますが、実はこれは「A(の活動)をしているその時は good だ」ということです。

(ex) I'm good at mathematics.

私は数学が得意です

She's an expert at organizing things.

彼女は物を組織するのがうまい

また「その場所にいる → その場所に属して活動している」から、「所属」の意味を表すこともあります。

(ex) He is a teacher at a high school.

彼は高校の先生です

それから at は「状況・状態」を表し、「～の状態」でという意味になることがあります。これは、「全体の流れ[行程]の中の現時点(の状態)」であり、そこに焦点を当てている[着目している]イメージです。

(ex) I always feel at ease in his company.

私は彼と一緒にいるといつも気が休まる

The epidemic was spreading, and they were all at risk.

伝染病が広がっていて彼らは皆危険にさらされていた

at peace

平和[平穩]で

at ease

くつろいで

at a loss

途方にくれて

at the mercy of A

Aのなすがままになって

at will

意のままに

⑤ 「原因[理由]」の at。

at は元々「一点」に着目し、

①そこに向かう

②(その場所・時・状態など)にいる、ある

ことを示すことから、感情の原因となる出来事[事物]との接点、つまり「まさに～に接して(喜ぶ・驚く・がっかりする…)」といった意味を持つようになりました。

具体的には「～を見て」「～を聞いて」「～で、～により」といった意味になります。

(ex) Jim was frightened at the sight of blood.

ジムは血を見てぎょっとした

I was surprised at the news.

私はその知らせに驚いた

At his command they brought the document to me.

彼の指示で、彼らはその文書を私のところへもってきた

⑥ 「速度・割合・価格」の at。

また at は「速度・価格・割合」を表し、「～で」という意味になることがあります。

これは、変動するものの一点を示すことから生じたものです。

(ex) The train was going at 100 miles an hour.

列車は時速100マイルで走っていた

Water boils at 100°C.

水は摂氏100度で沸騰する

I will let you have it at the same price.

同じ値段でお譲りしますよ

最後に on との違いをまとめておきましょう。後述しますが、on は「(あるものとの)接触」を意味します。

(ex) There is a cup on the table.

テーブルの上にカップがある

It's nice to sit on the grass.

草の上に座るのは気持ちがいい

それに対し、at はその一点に近づきはしますが、わずかに「距離」があります。だから at は「至近距離」にあるものがあるという感じです。たとえば

(ex) A robber grabbed at her bag.

強盗が彼女の鞆につかみかかった

という場合、強盗の手があともう少しのところで彼女の鞆に届きそうな、そんなイメージが湧いてくるでしょう(このように臨場感や動きのイメージが at にはある)。これを

(ex) A robber grabbed on her bag.

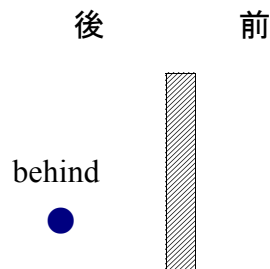
強盗が彼女の鞆につかんだ

と言った場合には、強盗は彼女の鞆を既につかんでしまっていることとなります。なぜなら on は「接触」していることを示すからです。

☞ A robber grabbed her bag. でも同じ意味になる。snatch, catch, grasp, strike, shoot などでも同じような用例がありうる。

(8) behind

behind の『核』のイメージは「(静止したものの)背後に隠れている」です。



そんな behind には、大きく分けて4つの意味があります。

① 「位置・場所」の behind。

具体的には「~の後ろに」「~の裏側に」「~の向うに」「~のあとに続いて」といった意味になります。反意語は in front of、ahead of です。

☞ behind と in back of との違いは、in back of は単に「~の後ろに」。behind には「隠れて」といったニュアンスがそこに加わる。

(ex) Jim sat behind me.

ジムは私の後ろに座っていた

There used to be a small castle (a few miles) behind the mountain.

山の(数マイル)向うに小さなお城が昔ありました

He sat behind the steering wheel.

彼はハンドルの前[運転席]に座った

車の先頭部を「前」と見て behind を用いる。コンピュータなどの場合は in front of を用いる。

(ex) He sat in front of the monitor.

彼はモニターの前に座った

A cat appeared from behind the curtain.

カーテンの陰からネコが現れた

特に leave, stay, remain 等の動詞と共に「(人などの)あとに(残して、留まって)」と訳す behind があります。

(ex) She stayed[remained] behind.

彼女はあとにとどまった

The painter left a great name behind her.

その画家は後世に偉大な名を残した

② 「時」の behind。

具体的には「(定刻などに)遅れて」「(人の)過去にある」「~の経験としてある」といった意味になります。

(ex) His way of seeing things is behind the times.

彼の物の見方は時代に遅れている

The bus arrived thirty minutes behind time[schedule].

バスは30分遅れて到着した

Our happy schooldays will soon be behind us.

楽しい学生時代もやがて過ぎ去ってしまうことでしょう

③ 「背後」の behind。

具体的には「~の背後に」「~の陰に」「~を陰で支えて、支持して」「~の原因となる」といった意味になります。

(ex) They spoke ill of him behind his back.

(彼の)陰で彼らは彼の悪口を言った

The woman must have someone behind her.

陰で誰かがその女性の糸を引いているに違いない

I wondered what was behind Tommy's decline.

私は、トミーの辞退の原因は何なのだろうと思った

The governor is behind this project.

知事が今回の計画の後押しをしている

④「劣等」の behind。

具体的には「(進歩・能力などで)~より遅れて」「~より劣って」「(…の分だけ)~に負けて」といった意味になります。

(ex) I am behind my classmates in English.

私は英語ではクラスメートより遅れをとっている

They were three goals behind the other team.

彼らは相手チームに3ゴール負けていた

(9) below

below の『核』のイメージは「~の下の方に位置している」です。

under が「広がりを持つものの真下に(覆われるように下に)位置している」ことを示す(over の反意語)であるのに対し、below は真下を含めてもっと広く(漠然と)下方の位置を示します(below の反意語が above になる)。

ちなみに beneath は below と under の両方の意味を持ちます。



under



below

そんな below には(反意語の above 同様)、大きく分けて3つの意味があります。

①「空間的な下」の below。

具体的には「～より下に[の・で]」「～の下方に[の・で]」「～より低く」といった意味になります。

(ex) The sun sank below the horizon.

太陽は水平線の下に沈んだ

Please write your name below hers.

ご自分の名前を彼女の名前の下にお書きください

②「地理的な下」の below。

具体的には「～の南の方に(の・で)」「～の下流に(の・で)」といった意味になります。

(ex) There is a bank a few miles below the bridge.

橋の数マイル下流[手]に銀行があります

☞ under the bridge は「橋の真下に」。

③「抽象的[比喩的]な下」の below。

具体的には数量・地位・階級・価値などが「～より下に[の・で]」「～より低く[劣って]」「～に値しない、ふさわしくない」という意味になります。

(ex) He was below (the) average in height.

彼は身長が平均より下だった(低かった)

I am below[under, beneath] him.

私は彼より地位が下だ

☞ below は「地位の上下関係」、under は「人に支配・監督されていること」が文意に含まれる。beneath の場合は「能力・地位が劣っていること」を示すので、やや侮蔑的な表現となる。

It's below you to say that.

そんなことを言えばあなたの品位にかかわりますよ

(10) beyond

beyond の『核』のイメージは「**～の向こう側に位置している・～を越えて向う(側)へ**」です。

そんな beyond には、大きく分けて3つの意味があります。

①「位置」の beyond。

具体的には「**～の向うに[の・で・へ]**」といった意味になります。

(ex) His house is just beyond that river.

彼の家はあの川のすぐ向うにあります

會 just は強調の副詞。

The ship came from beyond the seas.

その船は海の向こうからやってきた

②「時間」の beyond。

具体的には「**～を過ぎて**」といった意味になります。

(ex) Don't stay out beyond[after] midnight.

真夜中を過ぎるまで外にいてはいけない

會この場合、after が普通。

③「範囲・限界」の beyond。

具体的には「**(～の範囲・限界)を越えて**」「**～より以上に**」「**～より優れて**」といった意味になります。反意語は within になります。

(ex) Her conduct was beyond[above] reproach.

彼女の行動は非難の余地がなかった

They lived beyond[above] their income.

彼らは収入以上の生活をしていた

會 beyond の方が「はるかに超えて」といったニュアンスが込められる。

The question is beyond[above] me[my understanding/comprehension].

その問題は私にはわからない[理解できない]

=The question is more than I can understand.

I think he must be beyond 60.

彼は60歳を越えているにちがいないと思う

beyond endurance

我慢できない

beyond doubt[question]

疑う余地もない

beyond belief

信じられない(ほど)

beyond description[words]

筆舌に尽しがたい

beyond help

助けようもない

beyond possibility[endurance, belief]

ありえない[がまんできない・信じられない]

beyond comparison

比較にならないほど(よい)

beyond A's reach

Aの手の届かない

=beyond the reach of A

⇔ within A's reach Aの手の届く所に

=within the reach of A

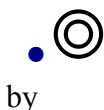
この「範囲・限界」の beyond は、特に疑問文・否定文で「~の他に[の]、以外に[の]」
という意味になることもあります。この場合 except で言い換えられます。

(ex) Beyond that, I know nothing about the case.

その件についてはその他にはもう何も知りません

(11) by

by の『核』のイメージは「~のそばに位置している」です。



by

たとえば Stand by me. は「私のそばにいて → 私に味方して」という意味です。

passers-by は「そばを通過する人 → 通行人」です。come by は「近く[そば]に来る → (情報などを)手に入れる」となります。by oneself は「自分のそばに[で] → ひとり(ぼっち)で」となります。drop by は「そばに落ちる → ちょっと立ち寄る」となったのです。

④ 「～のそば(近く)に」という意味の前置詞は、他に near, beside, about などがあるが、near よりも by の方がより近接した関係を表す。「近接性」を強調せず、何となく周囲(付近)にあるというのが about になる。beside は「左右(にある)」を表す(by は前後左右どこにあってもいい)。ただ beside については以下の用法に注意。

① 「～と比べると」

(ex) Beside yours, my bag is small.

君のと比べるとぼくのカバンは小さい

② [beside the point[mark]] 「的外れな、要点を得ない」

(ex) Your claim is beside the point.

君の主張は的外れだ

③ [beside oneself (with+感情を表す名詞)] 「(～で)我を忘れる」

(ex) He was beside himself with joy.

彼は喜びで我を忘れた

そんな by には、大きく分けて4つの意味があります。

① 「場所」の by。

1.[位置] 「～のそばに[を]」 「～の近くに」

(ex) He sat by my side.

彼は私のそばに座った

The residents wanted to move since they lived by the U.S. military base.

その住民達は、米軍基地近くに住んでいたのが引越したがっていた

④ beside は「～と並んで(そのそばに)」という意味になる。

(ex) The building stood beside the monument.

その建物はその記念碑のそばに立っていた

2.[通過] 「～のそばを通過して」

(ex) They took the path which runs by the stream.

彼らは小川のそばを通る道をたどった

3.[経由]「～を経由して」「～を通過して」=via, by way of
「通過」の by がこの「経由」へと発展しました。

(ex) We came home by (way of) Paris[the new expressway].

私たちはパリを経由して帰国した[新しい高速道路を通過して家に帰った]

4.[つかむ場所]「～を」

(ex) I caught him by the arm.

私は彼の腕をつかまえた

⚠ 「by his arm」や「by an arm」とはならないので注意。

②「手段・方法」の by。

遠い目標に対し、それを実現する(なし遂げる)ためには何かしらの「手段」が必要です。その場合、まずは手近[そば]にあるものを利用できれば利用したいと思うのが人の常。そこから by が「そばにあるもの→手段・方法」という意味を表すようになりました。by が手段を表す場合、下の例文のように、後ろが動名詞になることも多いですね。

(ex) The young musician earns her living by teaching music.

その若い音楽家は音楽を教えるで生計をたてている

1.[交通手段・通信手段]「～で」

(ex) The party traveled the country by bus[train, car].

一行はバス[列車、車]でその国を旅した

⚠ by が「交通手段・通信手段」を表す場合、その後の名詞は無冠詞にする。

(ex) by train[car/ plane/ ship]

列車[車/飛行機/船]で

by radio[telegram/ telephone]

無線[電報/電話]で

× go by my car × come by the plane

○ go in my car ○ come on a plane

byは手段としての交通機関を表すだけだが、on や in では「車[飛行機]に乗って」という感じが強い。

2.[原因・動作主(行為者)]「～によって」

ある「手段」によって何らかの結果が生じた場合、「その手段 = 原因」ということにもなります。そこから by が「原因」を表すようになりました。

(ex) by mistake まちがえて
by accident 偶然に

そして受動態で by は「動作主」を表しますが、これはある「動作(行為)を行う(引き起こす)直接的原因 = その動作主(行為者)」だからです。

(ex) Radium was discovered by the Curies.
ラジウムはキュリー夫妻によって発見された

上の例文でも、「キュリー夫妻 = ラジウム発見の直接的原因 = 動作主[行為者]」なわけですが、**動作主は by** で表しますが、**道具は with** で表します。

(ex) He was shot with[×by] a gun.
彼は銃で撃たれた

上の英文の場合、銃は「撃たれた」という事態を直接引き起こした直接的原因(=動作主)ではありません。引き起こしたのは銃を撃った人間ですね。したがって(道具を表す with を用いて) with a gun とは言えても by a gun とは言えません。しかし下の英文では hitman は動作主[行為者]であり by が使えます。

(ex) He was shot by a hit-man.
彼は殺し屋に撃たれた

③「基準」の by。

1.[判断の基準・尺度]「～でもって」「～によって」

手近にあるものを「手段」として使えば、その手段に従って行動する必要が出てきます。そこから「手段 = (従うべき)基準・尺度」という意味が生まれました。

(ex) Don't judge a person by his or her clothes.
服装で人を判断するな
⚠ judge A by B で「BでもってAを判断する」。
A man is known by the company (that) he keeps.
人はその仲間によって判断される
→ 仲間を見ればその人(の中身)がわかる

會上例の by は受動態の by ではないので注意。

It should be measured by the same standard .

それは同一基準で計られるべきだ

2.[単位]「～ぎめで」「～単位で」

これは「通過」を表す by が(「ある数値を通過する」と)抽象的(比喩的)に使われたものです。

(ex) They sell eggs by the dozen.

卵はダース売りである

I was employed by the month[the day, the week].

私は月給[日給・週給]制で雇われた

3.[程度・差]「～だけ」「～ほど」

これも「通過」を表す by が(「ある数値を通過する」と)抽象的(比喩的)に使われたものです。

(ex) Sales increased by 40 percent last month.

先月は売上げが40%増加した

The student missed the bus by a minute.

その学生は1分違いでバスに乗り遅れた

Jack is my junior by five years.

ジャックは僕より5歳年下だ

④「期限・限界」の by。

ある出来事が、基準となる時刻の「そば」で起こる、といったイメージから by が「期限・限界」を表すようになりました。具体的には「～までに(は)」といった意味になります。

(ex) I'll finish the work by[before] eight o'clock.

8時までには仕事を終えます

會 by は「～までに(は)」という意味で、ある時点までにおける動作の「完了・期限」に焦点があるのに対して、until[till]は、「～まで」という意味で、ある時点までの動作・状態の「継続」を意味する。

(ex) I will stay here until next Sunday.

次の日曜日までずっとここにいます

(12) for

for の『核』のイメージは「～の方向に向かって」です。
そんな for には、大きく5つの意味があります。

①「方向」の for。

1.[方向]「～行きの」「～に向かって」

(ex) Columbus sailed for India in the late 15th century.

コロンブスは15世紀末にインドに向かって出帆した

The train for Osaka leaves in three minutes.

大阪行きの列車は3分で出ます

2.[賛成・支持]「～に賛成して」

「～に背を向ける」「退く」と言えば、それは(日本語でも)「～に反対する」につながります。ということはその逆である「～に向かう」という for は、「賛成して」というイメージとつながるのです。

(ex) Are you for the plan, or against it?

あなたは計画に賛成ですか、反対ですか

ⓧ逆に「～に反対して」は against で表す。

3.[傾向・対象]「～に対して」

その対象へと注意・関心が「向かう」イメージからこの意味が生まれました。

(ex) Nancy has an ear for music.

ナンシーは音楽がわかる

My sister had a taste for classical music.

姉はクラシック音楽の趣味があった

He was named for a great golfer.

彼は偉大なゴルファーの名前にちなんで命名された

ⓧ be named for A で「Aにちなんで名付けられる」。

②「目的」の for。

「～に向かう」ということは、向かう場所を「目的」とする、あるいはそれを「求めている」といった意味につながるわけです。

1.[目的] 「～のために」 「～の目的で」

(ex) What did you do that for?

何のためにそんなことをしたの

I'm saving money for studying abroad.

私は留学するために貯金している

2.[追求] 「～のために」 「～を求めて」

(ex) He has been looking for a job.

彼は職を探している

The woman cried for help.

その女性は大声で助けを求めた

The ship came into port for water and food.

船は水と食料を積み込むために入港した

3.[利害] 「～のために」

(ex) He gave his life for their country.

彼は国のために命を捧げた

He works for a broadcasting company.

彼は放送局に勤めている

4.[用途・意図・適性] 「～するために[の]」 「～に適する」

(ex) These things are not for sale.

これらのものは非売品です

I think you're just the person for the position.

君こそその地位にうってつけの人物だと思う

This is a good location for a restaurant.

ここはレストラン向きの場所だ

③ 「交換(イコール)」の for。

日本語で「〇〇のためなら全財産投げ打ってもいい」等といます。つまり〇〇と全財産を交換可能な同等[イコール]の物とみなして、〇〇を「求めて」いるわけです。

ここから「～を求めて」という for が「～と引き換えに」「～に対して」という「交換[イコール]」の意味を持つようになったのです。

1.[交換・代償・報酬] 「～と引き換えに」「～に対して」

(ex) I bought the DVD for twenty dollars.

私はそのDVDを20ドルで買った

I'd like to change this suit for a larger size.

私はこのスーツを大きなサイズのと交換したいのです

2.[代理・代用・代表] 「～の代わりに」

(ex) He paid the money for me.

彼は私に代わって払ってくれた

He uses a saucer for an ash-tray.

彼はお皿を灰皿の代わりに使っている

The letters UN stand for the United Nations.

UNという文字は国際連合を表す

3.[相当・資格] 「～として」

(ex) We mistook her for a waitress.

私たちは彼女をウエイトレスとまちがえた

☞ mistake A for B で「AをBと間違える」。

Do you take me for a fool?

僕をばかだと思っているのか

☞ take A for B で「AをBとみなす」「AをBと間違える」。

The man was given up for dead.

その男は死んだものとあきらめられた

④ 「原因[理由]」の for。 「～のために[なので]」

以下の英文を見てください。

(ex) This city is famous for its beauty.

この街は美しさで有名だ

これは結局「この街＝美しい」ということですね。このように「原因(理由)」の for は「交換(イコール)」の for から発展したものなのです。ただ「原因[理由]」の for は

① for this reason(こういう理由で)、be famous[known] for といった決まり文句的表現。

② 「誉める」「感謝する」「罰する」「非難する」といった賞罰系の動詞

でしか使えません。つまり「病気・事故のために」などの場合は for は用いず、because of, on account of, owing to などを用います。

Ⓜ ちなみに「, for S+V～」で「**というのは～だからだ**」という理由の意味を表す用法がある。

(ex) It's going to rain, for it is getting dark.

雨が降るでしょう。というのは暗くなってきましたからね

これは接続詞の for。上例のように通例カンマ(,)等で区切られ、文中盤で用いる。

(ex) The driver was fined for being drunk.

そのドライバーは飲酒運転をしたために罰金を科せられた

He blamed me for the accident.

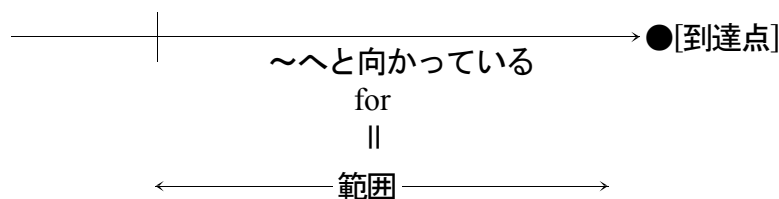
彼は事故の責任は私にあると言った

Ⓜ blame A for B で「**Bの理由でAを非難する**」。

⑤「範囲」の for。

「～へと向かっている」が for の『核』のイメージですが、「～へ向かっている」ということはその到達点までの「範囲」につながるわけです。

Ⓜ for の表す行為・動作の「始点～終点」全体に焦点(視点)が置かれた用法と言える。



1.[距離・時間]「～の間」

(ex) Nobody had visited the place for centuries.

誰もその場所を何世紀も訪れなかった

Tim has lived in Japan for three years.

ティムは3年の間日本に住んでいる

2.[範囲の限定]「～に対して」「～に関しては」「～にしては」

(ex) As for me, I prefer to see him.

私はどうかと言うと[に関しては]、彼に会いたいです

☞ as for A で「Aに関しては」。

Parents are responsible for the education of children.

親は子供の教育に対して責任がある

☞ be responsible for A で「Aに対して責任がある」。

He is smart for his age.

彼は年齢の割に賢い

☞ for one's age で「年齢の割には」。

It is warm for this time of year.

今ごろにしては暖かい

3. 「for A to do[願]～」の形で不定詞の意味上の主語を表す。「Aが～すること[ために・の]」。

(ex) I have work for you to do.

君にやってもらう仕事がある

4. [every, each, 数詞と共に用いて]「～に対して」「～につき」

(ex) There was one Japanese passenger for every seven American.

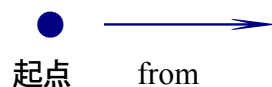
乗客は7人のアメリカ人に対して一人の日本人の割合だった

Use three cups of water for one cup of rice.

カップ一杯のお米につき、カップ3杯の水を用いなさい

(13) from

from の基本イメージは「起点(から離れる動き)」です。



それに対して to は「到達点(へ向かう動き)」を表します。そこでおなじみの from A to B は「AからBまでの(の)」となるのです。

(ex) How far is it from here to the station?

ここから駅までどのくらいの距離ですか

I works from Monday to Friday.

私は月曜から金曜まで働きます

from beginning to end

初めから終りまで

The patient is getting better and better from day to day.

その患者は日を追って良くなってきている

from time to time

時折

◎上例のように、AとBが同じ名詞の場合は、慣用的に冠詞をつけないことが多い。

It is a (from) pink to red color.

その色はピンクから赤にかけての色だ

◎上例のように、名詞の前に置かれてその名詞を修飾する場合には、fromはしばしば省略される。

そんな from には、大きく分けて3つの意味があります。

①「場所・時間・動作の起点」の from.

1.[起点・出発点]「～から」

(ex) I walked from the station to the hospital.

私は駅から病院まで歩いた

◎ from は「起点」を表し、out of は「通過点」を表す。

(ex) The man came from[out of] the room.

その男は部屋から出て来た

上例では、from は部屋を起点としてとらえているのに対し、out of は「(部屋)の中から外へ」という意味を表す。

2.[時間・順序・数量・値段の起点]「～から」

(ex) The class is from 9:30 to 11:00.

その授業は9時30分から11時までです

◎ただし start, begin, commence などの「始まる」という意味の動詞では from は用いられないので注意。

(ex) The class will begin at[×from] 9:30.

そのクラスは9時30分から始まります

3.[変化・推移の起点]「～から」

(ex) The weather is going from bad to worse.

天気は段々悪くなってきた

②「出所」の from。

1.[出所・起源・由来]「～から」「～出身の」

(ex) The phrase is a quotation from Shakespeare.

その言葉はシェイクスピアの作品からの引用である

I'm from Japan.

私は日本生まれです

I ordered a book from America by international telephone.

国際電話でアメリカに本を注文した

📦 order A(品物) from B(場所・店)で「AをBに注文する」。

これは「a book is from America」と考えるといい。

2.[原料・材料]「～から」「～で」

(ex) Flour is made from wheat.

小麦粉は小麦から作られる

3.[原因・理由・動機]「～から」「～のため」

(ex) He died from the wound.

彼はその傷がもとで死んだ

The captain of the crew acted from a sense of duty.

機長は義務感で行動した

4.[判断の根拠]「～から判断すると」

(ex) I can tell from the way you look that you're keeping something from me.

君の表情から君が私に何かを隠していることがわかるよ

Judging from the look of the sky, there'll be a storm soon.

空模様から判断するとまもなく嵐が来るだろう

③「分離」の from。

from が「分離」を表すのは「起点から離れていく」というイメージの影響です。

1.[分離・除去・解放]「～の中から」「～から」

(ex) The prisoners escaped from jail.

その囚人達は脱獄した

If your bad tooth is not pulled out, you will not be free from toothache.

虫歯を抜かないと歯痛がおさまらないでしょう

The father took the knife (away) from the child.

その父親は子供からナイフを取りあげた

2.[抑制・防止]「～から」

(ex) The heavy snow kept us from starting.

大雪のため私達は出発できなかった

3.[相違・区別]「～から」「～と」

(ex) I can't tell crocodiles from alligators.

私はクロコダイルとアリゲーターの区別がつかない

☞ tell A from B で「AをBと区(識)別する」。

Today's Japan is different from what she was in the prewar days.

今日の日本は戦前の日本とは違う

最後にちょっと変わった from の用法を紹介しましょう。

普通前置詞の後ろには「名詞(の仲間)」が来るものですが、from の後ろには「副詞」「前置詞+名詞」などが置かれることがあります。例をあげてみましょう。

(ex) The orders came from up above.

その命令は上からのものだった

You may take one from among these.

この中から1つ取ってよろしい

The moon came out from behind the clouds.

月が雲の後ろから現れた

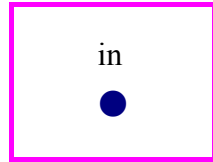
A snake came out from under the table.

一匹のヘビがテーブルの下から現れた

(14) in

in の『核』のイメージは「～の中に入っている」です。

つまり「(立体的・平面的に)囲まれたものの内部にいる」イメージです。



そんな in には、大きく分けて3つの意味があります。

①「内部・内側」の in。

1.[場所]「～の中に[で、の]」

(ex) The hiker fell in the river.

そのハイカーは川に落ちた

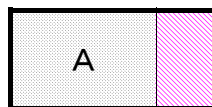
Our cat likes to sit in the sun.

うちの猫はひなたぼっこが好きだ

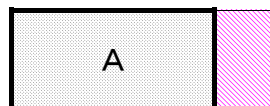
Japan is in the east of Asia.

日本はアジアの東部にある

罫 in the east of A は、in が「～の内部にいる」という意味なので、「Aの内部で東に位置する場所に → Aの東部に」という意味になる。図で表せば以下のようなになる。



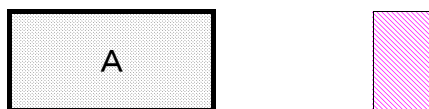
ちなみに on the east of A といった場合、on は「～に接触して(ある・いる)」という意味なので、「Aの東に接して(ある・いる) → Aの東側に」という意味になる。図で表せば、以下のようなになる。



(ex) North Korea is on the east of China.

北朝鮮は中国の東側にある

これに対して to the east of A といった場合、to は「到達点(目的地)に向かっただけの方向(性)」を表すので、「A(から離れて)東の方に → Aの東方に」という意味になる。これも図で表せば、以下のようになる。



(ex) Japan is to the east of China.

日本は中国の東方にある

2.[方向・運動]

以下の空欄には、すべて in が入ります。

・ () the direction of A Aの方向に

・ () all directions 四方八方に

⚠ to the direction とはならない。to A のAは「到達点(目的地)」となるものがくる。「方向(direction)」は到達点ではないからだ。

ではなぜ in を使うかというと、その方向を一つの枠としてとらえ、「その枠(=方向)の中に向かって」と考えるのである。

・ The sun rises () the east and sets () the west.

太陽は東から昇り、西に沈む

⚠ 「東から」を from the east とは言わない。なぜなら from A のAは「起点」となるものがくる。「東」は太陽が昇る起点ではないからだ(同様に「西」は太陽が沈む「到達点」ではないので to the west とは言わない)。in を使う理由は direction の場合と同じで、西、東といった「方角」を一つの枠としてとらえ、「その枠(=方角)の中で上がる・沈む」と考えるのである。

・ I often go fishing () the river. 僕はよく川に釣りにいく

⚠ この英文については

I often go fishing in the river .

と考えてもいいだろう。そしてこれは、この go の表す

- ① 「(その起点から)離れる」
- ② 「進む(進行する)」
- ③ 「(ある結果・到達点にまで)及ぶ・至る」

イメージのうちの、③の go ととらえるといいだろう。

もし go fishing to the river と言うと、「釣りをしながら川まで行く」という意味になってしまう。

in は「中に[で]」という位置を表し、ふつうは「運動の方向」を示さない(「運動の方向」を表すのは、基本的に into)のですが、

- ① それ自身が運動・動作を表す *dive, fall, jump, put, throw, thrust, break, cut, divide, fold, rise, set, go, come* などの動詞
- ② *direction* 等の名詞

と共に用いられると、into の代わりに in が「運動の方向」を表すことがあります。この場合、動作よりも結果としての状態に重点があると言えます。たとえば

I dived in the ocean.

は、

I dived (into the ocean and was) in the ocean.

の()部分が省かれた表現と言えます。もちろん I dived into the ocean. でも(「飛び込む」動作に重点が置かれるものの)同じ意味になります。

3.[服装・着衣] 「～を身につけて、～を着用して」

これは、「場所」の代わりに「服装」がきて、「それ[服装]に包まれている」ことを表すのです。

(ex) You look most charming in your pink dress.

君はピンクのドレスを着ると、とても魅力的に見えるよ

I passed a student in uniform on the street.

制服を着た生徒と通りですれ違った

A woman in white spoke to me.

白衣の女性が私に話しかけてきた

4.[限定・範囲]「～のうちで」「～の点で」「～において」
ある範囲を限定して、「その中で」という意味を表します。

(ex) One in ten children has flu.

10人の子どものうち1人はインフルエンザにかかっている

②「状態」の in。

1.[状態・環境]「～の状態で」「～の状況の中で」
これは「ある状態の中に置かれている」ことを表します。

(ex) The mother came back in a hurry.

その母親は急いで戻って来た

He was in despair when he failed in love.

失恋したとき彼は絶望していた

Father is in good[bad] health.

父は健康です[健康を害しています]

In tears, he confided to me that his wife had left him.

彼は自分の妻が出て行ったと涙ながらに私に打ち明けた

2.[活動・従事・過程]「～して」「～するときに」
これは「ある活動状態の中にいる」ことを表します。

(ex) My brother is in the navy.

兄は海軍に入っています

He is engaged in trade.

彼は貿易に従事している

I spend a lot of time in studying English.

私は多くの時間を英語の勉強に費やします

3.[形状・配列]「～の形で」「～を成して」
これは1つの「形」や「順序」を表し「その中で」という意味を表します。

(ex) The campers sat in a circle around the campfire.

キャンパーたちは火の周りに円陣を作って座った

The dictionary is in alphabetical order.

辞書はアルファベット順になっている

The girls stood in (a) line.

女の子たちは1列に並んでいた

4.[方法[手段]・材料・言語・音]「～で」「～を用いて」

「～という方法(手段)の中で → を使って(用いて)」と発展しました。

(ex) She made a speech in English.

彼女は英語でスピーチをした

He whispered in a low voice.

彼は低い声でささやいた

Do the task in this way.

その仕事はこんなふうに[こんな方法で]やりなさい

I wrote it in ink[pencil].

私はそれをインク[鉛筆]で書いた

④ in の後に続く「方法(手段)」を表す名詞は、way, manner, fashion など。

また in の場合、「素材・材料」を表す名詞を後ろに取る。そしてその名詞は不可算名詞扱いとなる。その理由は、それを「素材・材料」としてとらえ、その具体的な「形」を意識していないため。だから in a pencil とは言わず、in pencil と言う。

同じ意味(「～で」「～を用いて」)でも、(道具・手段を意味する)with を用いた場合、ink はどちらにしても不可算名詞なので

He wrote with ink.

でいいのだが、pencil など、可算名詞として使われるものが来た場合には

He wrote with a pencil.

とする。その理由は with の場合、pencil を「道具」として(つまりその具体的な「形」を意識して)とらえるからである。

③「時間」の in。

これは「ある一定の時間[期間]の中で」ということです。

1.[期間]「～(の)うちに、～の間に」「～かかって」

(ex) It was cold in the morning.

朝は寒かった

My daughter returned home in the evening.

娘は夕方帰ってきた

I learned Korean in a year.

1年間で韓国語を身につけました

The population has doubled in the last ten years.

人口は過去10年間に2倍に増加しました

2.[時の経過]「今から～後に」「～かかって」

(ex) Call back in an hour.

(今から)1時間後に折り返し電話をください

☞「今から1時間の内に」ということ。

It will be finished in a day.

それは1日ででき上がらう

3.「～の間のうちに」

(ex) This is the first time I've met him in seven years.

彼に会ったのは7年ぶりだ

☞「7年間の中で初めて」ということ。この in は first,last,onlyや否定語、最上級の後で用いられる。

最後に、(前置詞の)目的語が省かれた結果、副詞として用いられる in の例を3つほど紹介しましょう。

① Miniskirts will be in this year.

今年はミニスカートが流行するだろう

② Watermelons will soon be in.

スイカがもうすぐ盛りです

③ Is Tom in?

トムさんはご在宅ですか[いらっしゃいますか]

①の in は in fashion の fashion の省略で、「流行する、人気のある」という意味。

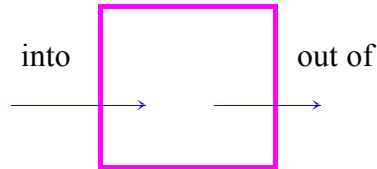
②の in は in season の season の省略で、「旬である、盛りだ」という意味です(これらの in は形容詞とも見なされる)。

この in が形容詞として名詞の前に置かれ、in thing(流行りのもの)といった使われ方をされることもあります。

③の in は in the house[office] の the house[office] の省略された例です。

(15) into

into は文字通り「in + to」。『核』のイメージは「~の中[内部]に入る」です(反意語が out of)。



そこから「変化・移動・結果・衝突・没頭」などの意味が生まれました。

つまり in には「内部にとどまっている」という「静」のイメージがあるのに対し、into は「~の中に入って行く」という「動」のイメージがあるのです。

そんな into は、大きく分けて4つの意味があります。

①「内部への移動・方向」の into。

1. [場所・空間・時間の中への移動] 「~の中へ[に]」「~へ」「~に」

(ex) The police went into the house.

警察はその家の中へ入っていった

會目的語(入っていく場所)が文脈上明らかで省略される時は in、つまり go in となる。

They looked into the sky.

彼らは空をのぞきこんだ

She threw her ring into[in] the river.

彼女は自分の指輪を川に投げ込んだ

When young I worked far[late] into the night.

若いころは夜ふけまで勉強した

2.[ある状態の中への移動] 「(事業・活動など)の中へ」

(ex) He ran into debt.

彼は借金をした

會「借金の中に入ってしまった」ということ。

She went into business when she was twenty.

彼女は二十歳の時に実業界に入った

They entered into a five-year contract.

彼らは5年契約を結んだ

㊦「場所に入る」という場合は enter A(場所) だが、「交渉・事業」といった「活動」を表す名詞が後に来ると enter into A となる。

We got into difficulties in a foreign country.

私は外国で困難に陥った

㊦「状態」つまり「陥っていた」という場合は in を用いる。

(ex) I was in difficulties.

困難に陥っていた

3. [行為の対象] 「～を」

「その(対象)の中に入って行く」というところから、「深く・詳しく」というニュアンスが生まれます。

(ex) The investigation committee inquired into the matter.

調査委員会はその事件を調べた

The chairman didn't go into details.

議長は詳細には論じなかった

② 「変化・推移・結果」の into。

具体的には「～に(なって、変って)」といった意味になります。

(ex) When she heard the news, she burst into laughter[tears].

その知らせを聞いて、彼女はどっと笑いだした[泣きだした]

The mother divided the cake into three pieces.

その母親はケーキを3つに分けた

In the exam, we must translate English into Japanese.

試験では英語を日本語に訳さなければならない

The king turned into a tyrant.

王は独裁者に変身した

The rain changed into snow unnoticed.

いつのまにか雨は雪に変わった

㊦一般に into は、ある物が別の物に変化することを表すが、to は1つのものの状態の変化を示す。

(ex) The drizzle changed to a heavy rain.

小雨が本降りになった

John persuaded his girlfriend into going to the movies with him.

ジョンと一緒に映画を見に行こうとガールフレンドを説得した

☞ persuade A(λ) into doing~で「Aを説得して~させる」。この into も

「→」という記号で表せる。逆に「Aを説得して~させない」は persuade

A(λ) out of doing~。out ofは「←」という記号で表せる。

③「衝突」の into。

具体的には「~にぶつかって」といった意味になります。

(ex) A boy bumped into me.

少年が私にドスンとぶちあたった

The car ran into[against] a wall.

その車は壁にぶつかった

☞ into の場合、対象物の「中に入り[めり]」込んだり「変形」したり「移動」

したりすることが含意される。against になると、against の「反発」の

イメージから、堅い物に「当ってはね返される」という意味が含意される。

④その他。

1. 「(物・事)に熱中・没頭して」「関心を持って」

これは「物・事の中に気持ちが入り込んで」ということです。

(ex) She's very much into jazz.

彼女はジャズに夢中になっている

My sister is much into women's soccer.

うちの妹は女子サッカーに夢中になっている

2. 「~を割って」

これは数学の説明の際に用いられます。

(ex) Ten into two is[equals] five.

10割る2は5

=Ten divided by two is[equals] five.

(16) of

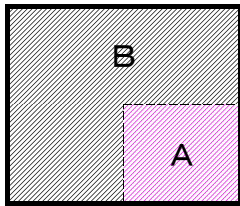
ofの『核』のイメージは①「所属・所有」②「分離」です。
下の図で見た方がわかりやすいでしょう。A of Bのイメージです。

「B = 全体・大元(出所)・原因・所有者」

「A = 一部(部分)・結果・所属物」

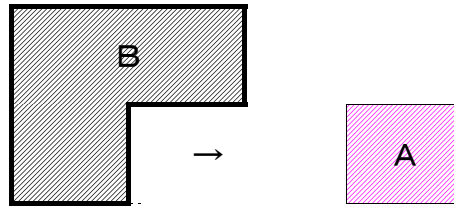
の関係が成立しています。

①



- 1.(Aから見ればBに)所属している
- 2.(Bから見ればAを)所有している

②



- 3.(AはBから)分離している
- 4.(AはBから)生じた

そんな of には、大きく分けて3つの意味があります。

①「所属・所有」の of.

1.[所属[帰属]]「～の」

(ex) The handle of this pot is broken.

このポットの取っ手は壊れている

罫「取っ手」は「このポット」に所属しているもの。逆に「このポット」が「取っ手」を所有しているとも言える。

Tokyo is the capital of Japan.

東京は日本の首都です

罫「首都(=東京)」は「日本」に帰属するもの。逆に「日本」が「首都(=東京)」を所有しているとも言える。

cancer of the lung

肺の癌
ガン

罫「肺」の中に「癌」があるわけで、「癌」は「肺」に帰属する関係。

2.[所有] 「～が所有している」「～の」

「A of B's」の形で用いられます。「A of 所有代名詞」となることもあります。

(ex) a friend of the writer's

その作家の友人(のうちの1人)

☞ a friend of the writer よりも一般的な表現。one of the writer's friends と言い換えられる。

a friend of mine

私の友人の1人(のうちの1人)

☞ one of my friends の意味で、不特定の友人を指すことになる。my friend と言うと、逆に特定の友人を指すことになる。

a portrait of my mother's

①母が所有している肖像画(のうちの1枚)

②母が[を]描いた肖像画(のうちの1枚)

☞ a portrait of my mother は「母を描いた肖像画」。

3.[部分・分量] 「～の中で、～のうちで[の]」「～の量の」「～の入っている」

(ex) Three of the boys were late this morning.

男子生徒の中の3人が今朝遅刻した

☞ 「the boys = 全体」「three = 部分・一部」の関係。

I bought half a pound of tea.

お茶を半ポンド買った

☞ a pound は tea の一部(分)。同じ用例として a piece of, a touch of などがある。これらは、和訳の際には「一つの～」 「少量の～」と、形容詞的に訳すのが普通。

② 「分離」の of。

1.[距離・分離・除去[剥奪]] 「～から(離れて)」「～を除いて」

(ex) His house is within three miles of the station.

彼の家は駅から3マイルの距離内にある

Young animals will soon become independent of their mothers.

動物の子供らは、じきに母親から独立するだろう

☞ be[become] independent of A で「Aから独立している[する]」。

The thief robbed the old lady of her bag.

泥棒はその老婦人から鞆を奪った

會 rob A(人) of B(物) で「AからBを奪う」。Aを襲って(Aから)Bを剥奪するということ。

2.[出所・起源] 「～から」 「～の」

(ex) She came of a noble family.

彼女は高貴な家柄の出である

3.[材料・要素] 「～で」 「～から」

(ex) Water consists of oxygen and hydrogen.

水は酸素と水素からできている

The desk is made of wood.

この机は木製だ

會 A(製品) is made of B(材料) と A(製品) is made from B(原料) との違いは、ofは「分離」といっても、大元[出所]との距離感が近い。ところがfromは「起点」を表し、AとBとの距離がofの場合よりずっと大きい[離れている]。そこからA(出来上がった製品)からB(原料)が離れている、つまりAを見ても元の原料がわからない場合にfromを用いる。

(ex) Sake is made from rice.

酒はお米でできている

だから This desk is made from wood. とは言えない。逆に A is made of B の場合は、Aを見て元の材料がわかる場合に用いる(AとBとの距離が近い)。だから Sake is made of rice. とは言えない。

4.[原因・理由] 「～のため」 「～で」

Bが出所でAはそこから出てきた[生じた]ということは、BとAは「原因と結果」の関係にもなりうるわけです。

(ex) People died of fever and starvation.

人々は熱と空腹のために死んだ

會「熱と空腹 = 原因」「人々が死んだ = 結果」。

The girls offered their money to the orphans of their own free will.

少女たちはは自分の自由意思で孤児達にお金を与えた

會「(少女たちの)自由意志 = 原因」 「(少女たちが)孤児たちにお金を与えたこと = 結果」。

③その他。

1.[関連・主題]「～について(に関する)」 「～の点において」

ofは「大元[出所]から離れて」出てきたものを表しますが、大元[出所]との距離は近いので、大元の特徴を引きずっています(一部持っている)。そこから「(大元)に関連する → ～について」という意味が生じました。talk of A(Aについて話す)のofなどがそれにあたります。

(ex) They suspected him of stealing.

盗みに関(連)して彼を疑った → 彼らは彼に盗みの疑いをかけた

會上例の場合、aboutでは「拡散的」で焦点がぼけてしまい、「疑っている」という緊張感がでない。suspect A(人) of B(物)で「BのことでAを疑う」となる。

I heard of the event last week.

私は先週その事件について耳にした

會hear Aとすると、「直接Aのことを聞いた」となる。hear of Aとすると「噂などで(間接的に)Aのことを聞く[耳にする]」となる。これはknowにも当てはまり、know Aは「直接Aのことを知っている」、know of Aは、「噂などで(間接的に)Aのことを知っている」となる。

His talk is always of baseball.

彼の話はいつも野球(について)のことだ

2.[性質・特徴]「～の」 「～の性質をもった」

「of+名詞」で形容詞句を形成して、「～の」 「～の性質をもった」という意味になることがあります。年齢・色彩・形状・寸法・価格・職業・役割等を表す名詞と用いられます。

(ex) He is a man of sense.

彼は分別のある人物だ

會of sense = sensible。 「of+抽象名詞は形容詞化する」と考えよ。

The discovery is of no value.

その発見は全然価値がない

會of no value = valueless

They are (of) the same age[height].

彼らは同じ年ごろ[身長]だ

3.[主格関係]

「A of B」のAを自動詞化、又は形容詞化できる場合があります。その時、Bがその(自動詞化・形容詞化したAの)主語になります。これを主格関係の of と言います。

(ex) the rise of the sun

日の出

☞ The sun rises.(日が昇る)と書き換えられる。

the existence of ghosts

幽霊の存在

☞ Ghosts exist.(幽霊が存在する)と書き換えられる。

Newspaper reporters were waiting for the arrival of the movie star.

新聞記者たちはその映画スターの到着を待っていた

☞ 下線部は The movie star arrives.(映画スターが到着する)と書き換えられる。

4.[目的格関係]

「A of B」のAを他動詞化できる場合があります。その時、Bがその(他動詞化したAの)目的語になります。これを目的格関係の of と言います。

(ex) the education of children

児童教育

☞ educate children(子供を教育する)と書き換えられる。

the discovery of the island

その島の発見

☞ discover the island(その島を発見する)と書き換えられる。

She has always had a love of traveling.

彼女は常に旅に対する愛着を持っていた

☞ 下線部は love traveling(旅を愛する)と書き換えられる。

5.[同格関係] 「～という」

同格とは、名詞(又は名詞相当語句)を、他の名詞(又は名詞相当語句)と並べて、前の名詞を補足的に説明するという用法です。

「A of B/doing～」の同格の場合、「A=B」「A=doing～」の意味関係になるのが特徴です。

1. 「A of B:BというA」型

(ex) the city of Rome

ローマの町

罫「その町 = ローマ」。

the news of the team's victory

チーム勝利の知らせ

罫「その知らせ = チームの勝利」。

his habit of smoking a cigar

彼の喫煙の習慣

罫「彼の習慣 = 葉巻を吸うこと」。

2. 「A of B:AのようなB」型

こちらは頻度は高くありません。この同格の特徴は A of B を The B is like A. で言い換えられることです。

(ex) an angel of a girl

天使のような少女

=The girl is like an angel.

this jewel of an island

この宝石のような島

=The[This] island is like a jewel.

(18) off

offの『核』のイメージは「(完全な)分離」です。つまり「~から(完全に)離れている」です(逆に off の反意語で「接触(している)」を表すのが on)。同じ「分離」を表す仲間である of との違いは、off は of を強めた語で「完全な分離」を表すということです。

カタカナ英語でも「今日はオフです」という場合のオフは、「仕事から(完全に)離れている → 休み」という意味ですね。また「通常料金から30%オフで販売する」という場合のオフは、「定価から30%離れている」ということ。その他、「シーズンオフ」「スイッチをオフにする」など、すべて off の『核』のイメージから理解できるでしょう。

そんな off には、大きく分けて8つの意味があります。

①「分離」の off。

具体的には「～から離れて[はずれて]」といった意味になります。

(ex) I got off the bus at the bus stop.

私はそのバス停でバスから降りた

My father fell off the ladder and broke his left leg.

父ははしごから落ちて左足を骨折した

Keep off the grass.

芝生に入るな

The stamp came off the postcard.

切手がはがきからはがれた

②「離脱」の off。

具体的には「(基準的なものから)それて」「～の調子が悪くて」といった意味になります。

(ex) The ship was off course.

その船はコースをそれた

His speech went off the subject.

彼の演説は主題からそれた

Business is off this week.

今週は商売が低調である

I'm feeling a bit off today.

今日は少し具合が良くありません

His remarks are off the point.

彼の発言は要点がずれている

This pork is a bit off.

この豚肉は少しいたんでいる

罎「食べられる状態から離れて[はずれて]いる」ということ。

③「位置」の off。

具体的には「(街路など)からはずれた所にある」「横町に入った所に[で]」「(海岸などの沖に[で]」といった意味になります。この場合、「あまり遠くない所で」という含みが込められます。

(ex) There is a bank off the main street.

本通りから横町にはいった所に銀行がある

The tanker sank three miles off Cape Ashizuri.

そのタンカーは足摺岬の3マイル沖合で沈んだ

④ 「休暇」の off。

具体的には「(仕事・職務などを休んで、怠って)」といった意味になります。

(ex) I am off duty today.

私は今日は非番です

He was off work.

彼は(そのとき)仕事を休んでいた

☞ out of work は「失業して」。

⑤ 「割引」の off。

具体的には「～から割り引いて」といった意味になります。

(ex) Save up to 20% off the cover price.

最大限正価の20%引きのお得です

☞ up to A で「(最大で)Aまで」。

I'll take ten percent off.

(定価から)10パーセント割り引きいたします

⑥ 「(物事・動作・習慣などの)中断・中止[休止]」の off。

具体的には「(人が)～をやめて、差し控えて」「～の必要がなくなって」といった意味になります。

(ex) I am off my food.

私は食事を控えています[私は食欲がありません]

He's off cigarettes.

彼は禁煙している

I put it off for a week.

それを1週間延期した

⑦ 「切断」の off。

具体的には電気・水道・ガスなどが「切れて、消して」「止まって」といった意味に

なります。

(ex) She turned the radio off.

彼女はラジオを消した

I switched off the electricity.

私は電気を切った

The light went off.

明かりがずっと消えた

⑧「強調」の off。

具体的には「すっかり」「完全に」といった意味になります。「完全に分離する→完全になくなる→すっかり、完全に」となったのです。

(ex) He drank it off.

彼はそれを全部飲み干した

They paid off their debts.

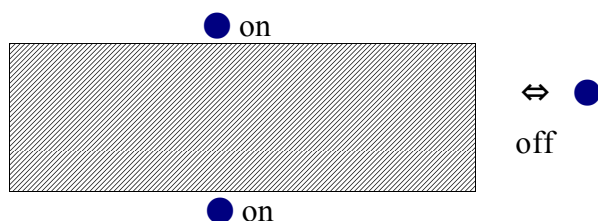
彼らは借金を清算[完済]した

Clear off the table.

テーブルをきれいに片づけなさい

(17) on

on の『核』のイメージは「接触」です(反意語は off)。



そんな on には、大きく分けて2つの意味があります。

①「接触」の on。

1.[場所の接触]「～の上に」「～に乗っている」「～に接して」

「接触」してさえいれば面の下側でも横側でもかまいません。また on the menu(メニ

ューに載っている)といった比喩的な用法もあります。

(ex) The dog was sleeping on the mat.

犬はマットの上で寝ていた

Look at the road map on the wall.

壁にかかっている道路地図を見てください

Can you see the fly on the ceiling?

天井に留まっているハエが見えますか

What is on the menu today?

きょうの献立は何だい

2.[物(人)と物(人)との接触・付着・着用[所持]] 「～に付いて」「～を身につけて」

(ex) The man kept his dog on a leash.

その人は犬をひもでつないでおいた

She had new gloves on her hands.

彼女は手に新しい手袋を手にはめていた

Her high-pitched voice got on my nerves.

彼女の甲高い声は私の神経にさわった[イライラした]

④「神経に接触した→イライラした」ということ。onは「上からのしかか
るような(圧)力」をイメージさせる場合がある。

(ex) I pressed on the call button.

私はベルを押した

3.[近接] 「～のそばに」「～に面して、沿って」「～(の方)に」

2者が接するように存在しているという場合も on が使われます。

(ex) She lives in a village on the frontier.

彼女は国境の村に住んでいる

London is on the Thames.

ロンドンテムズ川のほとりにある

There are trees on both sides of the road.

道路の両側には木が植わっていた

4.[特定の日(の朝・昼・夕方等)・曜日を表す]

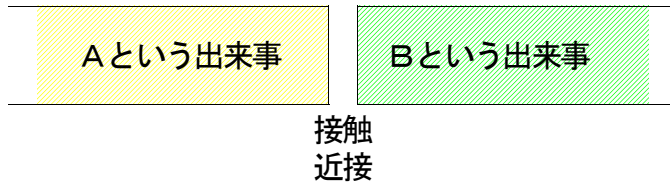
「ある(特定の)時間に接触している」からこの意味が生まれました。

(ex) I always go to church on Sunday(s).

私はいつも日曜には教会に行きます
 On a Christmas morning I got a present.
 クリスマスの朝にあるプレゼントをもらった

5.[時間的接触・近接(連続)]「～すると(すぐに)」

「Aという出来事とBという出来事が(時間的に)接触している、つまり連続している[起こる]」というのも on のイメージと重なるのです。



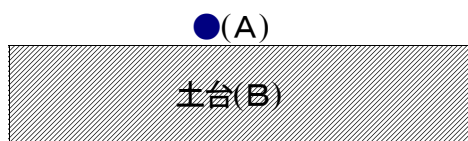
(ex) On my arrival[On arriving] in San Francisco, I called Miss Brown.

サンフランシスコに着くとすぐに私はブラウンさんに電話した

上の英文は、「サンフランシスコに着く」という行為と、「ブラウンさんに電話をかける」という行為が「連続」している、つまり(時間的に)「接触・近接」しているので on が使われるわけです。

6.[支え・依存]「～に支えられて」

「AがBに支えられている(依存している)」という場合、「B(物・事)が土台となり、その上にAが乗って[接して]いる」というイメージでとらえられ、そこで on が使われるわけです。先程 on には「上からのしかかるような(圧)力」をイメージさせる場合があると言いましたが、逆にここでのような「下から押し上げる[支える]ような力」をイメージさせることも、on にはあるのです。



罫AはBに支えられ、依存している関係ととらえられる。

(ex) She lived on a small salary.

彼女はわずかな給料で暮らしていた

This dinner is on me.

この夕食は僕のおごりだ

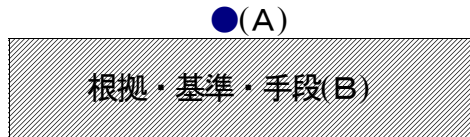
He lay on his back.

彼はあお向けになった

④「背中(back)を(地面との)支えとして横になった」ということ。

7.[根拠・基準・手段]「～に基づいて」「～によって、でもって」

「AはBを根拠[基準]、手段として用いる」という場合、「B(根拠・基準・手段となるもの)の上にAが乗って[接して]いる」というイメージでとらえられ、ここでも on が使われます。



(ex) On what grounds do you say that is true?

あなたはどういう根拠でそれが正しいと言うんだい

The theory[story] is based on facts.

その理論[話]は事実に基づいている

We watched the game on television.

我々はテレビでその試合を観戦した

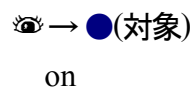
I had a talk on the telephone.

電話で話をした

④手段を表す by を用いて by telephone とも言える。

8.[関係・対象・方向]「～に関する[して]」「～に向かって[進んで・集中して]」
「～に対して」

「ある対象となるものに対して、関心・注目・焦点等が接している」ということから、on に上記のような意味が生まれます。その対象に対する(向かう)力が on で表されます。



(ex) It's a movie on the Crimean War.

それはクリミア戦争についての映画だ

He wrote the book on Japanese culture.

彼は日本文化に関する本を書いた

The lady smiled on me.

その女性は私に(向かって)ほほえみかけた

Fortune at last smiled on me.

ついに運が向いてきた

The storm is on us.

嵐が迫っている

㊦ 「ある対象に接する方向に向かう → ～に向かう[向かって]」となった。

The intense heat told on her.

ひどい暑さが彼女にこたえた

㊦ tell on A で「Aに悪い影響を与える[こたえる]」。このように「ある対象に焦点が接する[向かう]」ことが悪いこととしてとらえられることもある。

I am working on my new book.

新しい本に取り組んでいます

㊦ on は「対象に関心が接する → 対象に関心[意識]が集中する」と転じる。

そこで work on は「(作品・仕事・勉強など)に意識を集中して働く → ～に取り組む、取りかかる」となった。また work on には「～に影響を与える」という意味もあるが、これは「～に意識を集中して働きかける」ということ。

② 「継続」の on。

「ある(動いている)ものの上に乗っている」というイメージから on が「(継続する)動き」を表すようにもなりました。具体的には以下の用法があります。

1. [(進行中の状態) 「～中で」 「～して(いて・いる)」 「行われていて[動いていて]」]

(ex) They have been on strike for nearly a week.

彼らはほぼ1週間ストライキ中である

They walked[talked, worked, slept] on.

彼らは歩き[話し・働き・眠り]続けた

The radio is on.

ラジオがかかっている

What's going on?

何が起こって[始まって]いるのか

What's on at the movie theater?

その映画館では今何が上映されているの

Don't leave the tap on.

じゃ口をあけたままにしておかないで

2.[用事・目的・従事・所属]「~のために」「~で」

(ex) I went to Tokyo on business.

私は商用で東京へ行った

I'm on duty from 9 a.m. to noon.

私は午前9時から正午まで勤務についています

Mr. Saito is on the board of directors.

斉藤氏は理事会の一員[理事]です

(19) out。

out の『核』のイメージは「ある範囲・活動から(外に)出る」という動作です。

そこから派生して「外に向かって伸びる[ばす]」という動作や、「外に出ている」という状態を表すこともある。

なお out は、英文中では副詞として使われることが圧倒的に多い。

ただし話し手がその「範囲・活動」の内側にいるのか外側にいるのかで、out が表す意味は180度変わってきます。簡単な例をあげてみましょう。

(1) The man went out.

その男は出て行った

(2) The man came out.

その男は出てきた[現れた]

(3) The light went out.

電気が消えた

(4) The moon came out.

月が現れた

(1)と(2)、そして(3)と(4)は同じ out を使っていながら、その意味は正反対(「出て行く」⇔「出て来る」、「消える」⇔「現れる」)です。

その理由は、話し手もまたその「範囲・活動」の内側において、そこからあるものが「出る」となれば、(話し手から見れば)それは「消える・(い)なくなる」「出て行く」動作になります。

逆に話し手の方はその「範囲・活動」の外側にいて、あるものが(その範囲・活動から話し手のいる側へと)「出る」となれば、(話し手から見れば)それは「出て来る」「現れる」動作になるのです。これが out が一見正反対の意味を持つように見える理由です。ここではわかりやすくそれを「**退出(=出て行く)の out**」と「**出現(=出て来る)の out**」という言葉で表してみようと思います。

☞ そうすると、(1)(3)は「退出の out」、(2)(4)は「出現の out」の例ということになる。

① 「退出の out」。

(ex) He ran out of the room and never came back.

彼は部屋から走り出て二度と戻ってこなかった

☞ 「部屋」という物理的な「範囲」から「出て行く」ということ。

John fell into a hole, and I helped him out.

ジョンが穴に落ちたので助け出してやった

☞ 上例は、純粹に話者自身から見れば(ジョンを自分の方に助け出すのだから)「出現の out」なのだが、話者がジョンの目線に立っていると見れば「退出の out」とも言える。

The radio is out of order.

そのラジオは故障している

☞ 「正常な状態(=order)」という「範囲」から「出て行って」しまっている状態。このように「出た」結果としての状態を表すこともある。

The miners are out again.

坑夫たちは再びストライキをやっている

☞ 「仕事」という「活動」から外に出ている状態。

The Liberal Democratic Party is out.

自民党は野やに下っている

☞ 「政権」から出ている状態。

The plane was three hours out from New York.

飛行機はニューヨークを発って3時間のところにいた

He stretched out his hand.

彼は片手を差し出した

☞ 「外に出る → 外に向かって伸ばす」という out。この場合、差し出された側から見ればこれは「出現の out」になる。

「活動から出る → 活動を終える → 活動を(最後まで)やり切る → やり遂げる、徹底

的に(やり尽くす)」となることもあります。

(ex) When school was out, we played baseball in the park.

学校が終わると、私達は公園で野球をした
①学校での活動から出る → 活動を終える。

They carried out their duty.

彼らは自らの義務を果たした[成し遂げた]

We should fight it out.

我々は最後まで戦うべきだ

Wash the dirt out.

泥をすっかり洗い落としなさい

You must hear me out.

私の言うことを最後まで聞きなさい

Let's play the game out.

最後まで試合を投げないでやろうよ

このように「退出の out」は、様々にその意味が発展します。いくつか更に例をあげてみましょう。

(ex) I'm out with Tom.

僕はトムと仲たがいしている
①友好的な関係[範囲]から出てしまっている。

Our calculations were out.

私達は計算違いをした
①正答から外れて[出て]しまっている。

The batter is out.

打者はアウトだ
①ルール(あるいはプレー)の外に出て行かざるを得なくなること。

We were tired out.

私達はヘトヘトに疲れ切っていた
① out はこのように「完全に出し切って無くなる」という意味にもなる。

The fuel was running out.

燃料は切れかかっていた
① run out で「(物を)使い切る」。これも「出し切って無くなる」ということ。

Mini skirts are now out.

ミニスカートは今や流行遅れだ

☞流行の(範囲の)外に出ているということ。

②「出現の out」。

(ex) A fire broke out in the middle of the city.

街の中心で火事が発生した

The secret was out.

その秘密が外に漏れた

Flowers came out.

花が咲いた

Patricia married Joel out of pity.

パトリシアは同情してジョエルと結婚した

☞「哀れみ(pity)」という感情の「範囲」から、結婚するという結果(としての行動)が「出てきた」。

The teacher shouted out instructions in English.

その教師は英語で指示を叫んだ

☞「叫んでその内容を口にすべて出す(out)する」。shout out は「叫びたいことは全部叫び尽くす」という出し切った感がそこに生まれる。

The branches of the tree jut out.

その木の枝は四方に張っている

☞「外に出ている → 張り出して[突き出して]いる」。

他にも figure out で「～を理解する」という表現がありますが、これも「出現の out」の応用で、「完全に～の輪郭をはっきりさせる[浮かび上がらせる] → ～を理解する」となったわけです。

(ex) I can't figure him out.

彼を理解できない

Can you figure out what to do with this?

これをどうしたらよいかわかりますか

(20) out of

out of の『核』のイメージは「～の中から外へ(出てくる・出ていく)」です(反意語は into)。

そんな out of には、大きく分けて4つの意味があります。

①「運動・位置」の out of.

具体的には「～の中から外へ」「～の外に」「～から離れて」といった意味になります。out of A のAにあたるものが文脈上明らかな場合は、(go out などのように) of A は省略されます。

(ex) He came out of the room.

彼は部屋から出てきた

☞ out of は from としてもいいが、out of は内から外への運動を、from は起点を強調することになる。

The castle is a few miles out of the city.

その城は、街から数マイル離れたところにある

The manager was out of his office on business.

支配人は仕事で事務所にいなかった

We talk him out of marrying the woman.

我々は彼を説得してその女と結婚するのをやめさせた

☞ talk A(人) out of doing～で「Aを説得して～させない」。これは「Aと話して～することから離れる方向に仕向ける」ということ。out of を「←」と考えるといい。ちなみに talk A(人) into doing～は「Aを説得して～させる」。into は「→」と考えるといい。

②「動機・原因・感情」「材料・源」の out of.

具体的には「～から」「～で」といった意味になります。

(ex) She did it out of pity[sympathy, kindness].

哀れみ[同情・親切心]から彼女はそれをした

I lived in a house made (out) of stone.

私は石造りの家に住んでいた

He read aloud a few passages out of a novel by Soseki.

彼は漱石の小説からの数節を声に出して読んだ

③「範囲」の out of。

具体的には「(～の範囲)を越えて」「～の届かないところに」といった意味になります。

(ex) Keep all medicines out of the reach of children.

薬品はすべて子供たちの手の届かない所に置きなさい

He is out of hearing.

彼は(私たちの)声の届かない所にいる

The ship was out of sight.

船は姿が見えなくなった

④その他。

1. 「(ある数)の中から」

(ex) (in) nine (cases) out of ten

10のうち9つ(で) [十中八九(は)]

Today three out of every four Japanese live in cities.

今日、日本人のうち4人に3人は都市部に住んでいます

2. 「(ある状態)を離れて」

「脱して」 ⇔ in

「～からはずれて」「～と無関係になって」

(ex) He is out of work.

彼は失業中だ

We were out of danger.

我々は危険を脱した

3. 「(一時的に)…がなくなって」「不足して」

(ex) The goods you ordered is now out of stock.

注文いただいた商品は現在在庫切れです

She's out of food.

彼女は食料を切らしている

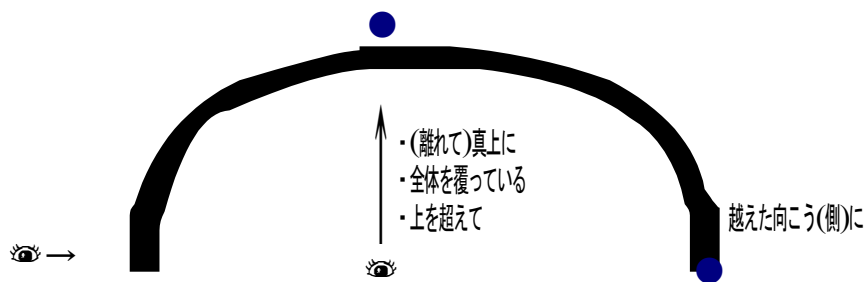
4. 「～を奪って」「～を奪われて」

(ex) The poor old lady was cheated out of her money.

その哀れな老女は金をだまし取られた

(21) over

over の『核』のイメージは「真上から(弧を描くように)全体を覆っている」です。



そんな over には、大きく分けて9つの意味があります。

①「真上(に・を)」の over。

具体的には「～の真上に[を]」「～の上(の)方に」「張り出して」といった意味になります。

☞ over は「離れて真上に」を表し、その結果、時として「覆いかぶさる感じ」を含意することもある。

above は真上を含めて「広く(漠然と)上方の位置」を表(必ずしも真上とは限らない)。

on は「接触して上に」。

(ex) The roof over our heads was very high.

頭上の屋根はとても高かった

There was a bridge over the river.

その川には橋がかかっていた

②「全体を覆う」の over。

具体的には「～を覆って」「～一面に」「～の方々に」「～じゅうを」といった意味になります。

☞ この場合は対象物に接触している時にも(もちろんしていなくても)使われる。

つまり単なる「接触」なら on、「全体を覆うようにして接触している」なら

over となる。

(ex) Mother spread a cloth over the table.

母はテーブルクロスを(テーブルに)掛けた

The flu is spreading all over the world[=all the world over].

世界中でインフルエンザが蔓延している

愈しばしば副詞の all を前に置いて「一面に」の意を強めることがある。

真上からでなくても「垂直に～を覆う」という場合も over が使われます。

(ex) The woman put her hands over her face.

その女性は手で顔を覆った

比喩的に「(変化などが人に)に迫って、～を襲って」といった意味で、この over が使われることもあります。

(ex) A sudden change came over Japanese society.

突然の変化が日本社会を襲った

③ 「～の上を超えて」の over。

この場合、

- 1.物理的に(～を)越える、あふれ出る
- 2.ある基準を越える[越えている]
- 3.比喩的に(乗り)越える、克服する

などがあります。

(ex) The plane was flying over the Pacific Ocean from Narita to Los Angeles.

その飛行機は成田からロサンジェルスまで太平洋の上を(越えて)飛んでいた

The monkey jumped over the fence.

サルはフェンスを飛び越えた

We walked over a brook.

私達は小川を(またいで)渡った

愈 walk through だと「小川の中を歩いて渡る」となる。walk across だと、

「上か」「中か」といったことを特に問題にせず、とにかく(一方の)岸から(もう一方の)岸へ渡ったことを表すことになる。

The milk spilt over the cup.

ミルクがコップからあふれ出た

Over the rain, we heard the sound of distant voices.

雨の音越しに遠くの人の声が聞こえた

I couldn't hear him over the roar of the engine.

エンジンのうなる音にかき消されて彼の言うことが聞えなかった

㊦「(騒音などが)~を越えて→~よりひときわ大きく」という意味でも over が使われる。

My father is over 50.

うちの父は50を過ぎています

㊦この over は more than で言い換えられる。

I am over the worst difficulties.

私は最難関を突破した

He is over his illness.

彼は病気から回復している

④「~の上を越えた向こう(側)に」の over。

これは「~の上を越えた」後の結果としての「終点」に焦点[視点]置かれた意味と言えます。

(ex) He said there was a magical land over the mountain.

山の向こう(側)に魔法の国があると彼は言った

㊦この意味では beyond と近いが、over は「弧を描くように越えたところ」に。beyond は「越えて(はるかかなたに)」という意味になる。

⑤「優越」「優先」「支配」の over。

1.「優越」の over。

具体的には「(地位などが)~より上で」「(能力などが)~より優れて」といった意味になります。

(ex) Sam is over[above] me in the office.

サムは会社では私の上役だ

㊦above では単に地位の上下関係を示すが、over になると(直接の)支配や監督する意味まで含む。

2.「優先」の over。

具体的には「~に優先して」といった意味になります。

(ex) Mr. Tanaka was chosen over all other candidates.
田中氏は他のすべての候補者に優先して選ばれた

3. 「支配」の over。

具体的には「～を支配して」といった意味になります。

(ex) The king ruled over his kingdom for a long time.
その王は長い間自身の王国を支配した
man's control over nature
自然に対する人間の支配

⑥ 「期間」の over。

「～の期間(全体)を覆うようにずっと」という「時間の経過」を表す場合、over が使われます。特定の時期を示す語と用いられることが多いですね。具体的には「～の間(ずっと)」「～に渡って」「～が終るまで」といった意味になります。

(ex) I stayed in New York over Christmas[the weekend].
クリスマス[週末]の間ニューヨークに滞在した
They stayed there over Sunday.
彼らは日曜(が終わる)までそこに滞在した

⑦ 「従事」の over。

身を乗り出して対象物の上に覆いかぶさる姿勢から、over がこの意味を表すようになりました。具体的には「～しながら」「～している最中に」といった意味になります。通例、「話す・眠る」といった動詞と共に用いられます。

(ex) My grandmother often goes to sleep over her sewing[book].
祖母はよく縫い物[読書]をしている最中にうとうとする
They discussed the matter over our dinner[(a cup of) tea].
彼らは食事をしながら[お茶を飲みながら]その問題を論じた

⑧ 「関連」の over。

「～をぐるっと円を描くように覆う → ～をめぐって」というイメージです。具体的には「～について」「～をめぐって」といった意味になります。about と比べて長時間の紛争やいさかいを暗示することが多いですね。

また look over(よく調べる)、think over(よく考える) もこの over の応用です。

つまり「(円を描くように)360度あらゆる角度から見る・考える」ということ。

(ex) The family always quarrel over money.

その一家はいつもお金のことについて言い争っている

このように over が動きを表す場合、その描く弧は

①180度(「真上・全体を覆う」「ひっくり返る」イメージ)

②360度(「～をめぐって」「～について」というイメージ)

③90度(「立っているものが転倒する」イメージ。後述)

という3種類があることになります。

⑨「その他」の over。

1.[強調・終了・反復]

「徹底的に、完全に、すっかり」「終わって、済んで」「もう一度」

over が「～じゅうを→端から端まで→徹底的に、完全に、すっかり」と強調の意味を表したり、転じて「すっかり→終わって、済んで」と終了の意味を表すことがあります。更に(360度の動きから)「終わって→もう一回」と反復を表すこともあります。

(ex) Think it over before you make up your mind.

決心をする前によく考えなさい

When questioned, he talked all over.

彼は尋問をされた時に何もかも話した

I read that novel four times over.

私はその小説を4回繰り返して読んだ

The game was over, and the players came home.

試合が終り、選手たちは帰宅した

2.[手段]「～によって」「～で」

電話・ラジオについて用います。今では on の方が普通です。

(ex) I'm sorry, I don't give out my credit card number over the phone.

すみません。電話でクレジットカードの番号を申し上げられません

I heard the news over[on] the radio.

ラジオでそのニュースを聞いた

3.[転覆・転倒]

(物にけつまずいたり等して)転ぶ様子が、半円状の(弧の)動きを表す over のイメージと重なってこの意味が生まれました。

(ex) I fell over a rock and injured.

石につまずいて怪我をした

4.「～で割って」「～分の」

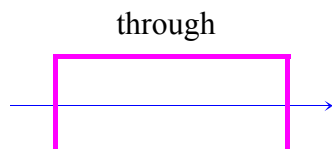
数学の説明の際に用いられます。over の目的語は分数の分母。

(ex) 15 over 30 is the same as one half.

15割る30は2分の1です

(22) through

through の『核』のイメージは「筒状のものの中を(一方から一方へ)通り抜ける」です。



④「通過[横断]」を表す前置詞として across もあるが、こちらは表面[平面]上のことを表す。それに対し through は「～の中を通り抜ける」といったイメージ。

① We walked across the grass.

② We walked through the grass.

①の文は、同じ草でも(芝生のような)丈の短い草の上を歩いて通過していく感じ。

②は腰～胸丈、あるいはそれ以上の草むらの中をかきわけて進んでいく感じ。

そんな through には、大きく分けて7つの意味があります。

①「通過・貫通」の through。

1.[(通過)動作]「～通って[通り抜けて]」「～から」「～を無視して」

(ex) The train ran through the tunnel.

列車はトンネルを走り抜けた

They built a tunnel through the mountain.

彼らはその山を掘り抜いてトンネルを造った

She threaded[pushed, made] her way through the crowd.

人ごみを縫うようにして[人ごみを押しのけて・人ごみの中を]進んだ

I could hear his voice through the noise.

騒音にかき消されずに彼の声が聞えた

☞「騒音の中を通り抜けた彼の声が聞こえた」ということ。

I opened the door and let her through.

私は戸を開けて彼女を中へ通した

I looked a newspaper through in the morning.

私は朝新聞にざっと目を通した

The car went through a stop sign without stopping.

その車は一時停止の標識を無視して止まらずに通過した

☞「(通常止まるべき所を)そのまま通過して→無視して」となった。

カタカナ英語でも「スルーする」などと言うので類推はしやすい。

2.[状態]「～を抜けて[貫いて]」

(ex) There is a paved road through the park.

公園を抜ける舗装道路があります

3.[結果]「～の向こうに」「～を抜けたところに」

「～を通過した結果、その向こうに」という意味で through が使われることがあります。

このように through は、通過の「動作」「状態」「結果」の3つを表しうるのです。

(ex) Through the clear water I could see the rocks.

澄んだ水越しに岩が見えた

②「場所」の through。

「～の場所を通過して→～の場所中(全て)を」と意味が派生しました。

(ex) I want to travel through the country.

その国中(全て)をくまなく旅行してみたい

The scandal spread through the country.

そのスキャンダルは国中に広まった

Blood circulates through the body.

血液は体内を循環する

③「期間」の through。

「～の期間を通過[経過]して → ある期間の間中(ずっと)」となりました。

(ex) The snow lasted through the night.

雪は一晩じゅう降り続いた

He slept through most of the day.

彼は一日の大半を眠っていた

(all) through the year[winter]

一年[冬]じゅう(ずっと)

☞ all は強調の意味の副詞。

The fair will be held through June 10.

博覧会は6月10日まで開かれる

The store open (from) Monday through Friday.

その店は月曜から金曜まで開いている

☞ (from) A through B で「AからBの間中ずっと通しで」。

④「(活動の)完了」の through。

through は「通過した結果」も表すことができると言いましたが、ある活動を行った[通過した]結果として、その活動を「終える」という意味も through は持つようになりました。「～を通過する[行う] → ～を通過してしまった[行ってしまった] → (～をし)終わった」となるわけです。

(ex) The novel was so boring. I couldn't read it through.

その小説はつまらなすぎて最後まで読めなかった

Are you through your homework?

宿題は終わりましたか

Are you through yet?

もう終わったの?

They are through school at four o'clock.

4時に学校が終わる

☞ 「be動詞+through」の through は、be動詞の補語として形容詞とも解される。

I'm through with Mary.

メアリーとはもう終わった[別れた]んだ

He is through with his work at last.

彼はやつのことで仕事が終わった

I am through with that kind of book.

そういう種類の本にはうんざりした

④ be through with A は上例のように①「Aを終える」②「Aと別れる、縁を切る」③「Aにうんざりする、飽きる」の3つの意味がある。

⑤「経験」の through。

「ある出来事を通過する[して] → ～を経験する[して]」となりました。

(ex) Through the dry spell, the villagers suffered.

日照り続きで村人たちは苦しんだ

I can see what you have been through.

これまであなたがどんな目にあってきたか私にはわかります

They went through a series of misfortunes.

彼らは次々と不運な目に遭った[を切り抜けた]

She went through a series of difficult operations.

彼女は次々に難しい手術を受けた

④ go through A で「A(苦労など)を経験する、経る」「Aを受ける」という意味。「Aを調べる、Aに目を通す」という意味になることもある。

(ex) I went through a report in detail.

報告書の細目に目を通した

⑥「仲介[媒介]」「手段[方法]」「原因」の through。

through が「～を通じて[通して]」という「仲介[媒介]」、更に「～によって」という手段[方法]や原因を表すことがあります。

(ex) I got my job through a friend of mine.

私はある友人を通じて職を得た

Through your help, I succeeded.

君の援助によって私は成功できた

You can learn English through the Internet.

ネットで英語を学ぶことができる

I am sure he succeeded through hard work.

私は彼は勤勉によって成功したと確信しています

⑦その他。

副詞の through の以下の用法もおさえておきましょう。『核』のイメージが頭に入っていれば、これらの理解も容易でしょう。

1. 「(初めから)終わりまで」「ずっと」「目的地までずっと」

(ex) I heard him through.

私は彼の言うことを最後まで聞いた

I walked all the night through.

私は一晩中歩き続けた

This train goes through to Tokyo.

この列車は直通で東京まで行っています

2. 「全く」「すっかり」「徹底的に」

(ex) I got wet through to the skin.

私はびしょぬれになった

The fish is cooked through.

魚はよく煮えている

(23) to

to の『核』のイメージは「到達点(へ向かう動き)」。そしてその結果として「～と向かい合って[あい対して]」です。

「到達点(へ向かう動き)」についてですが、to はそこから「到着点」に向かう「(時間・距離・性質などにおける)方向性(または変化)」を表します。「→」の記号で表せます。そして「to A」のAは「到着点・目標・終点・限界・結果」を表します。

—————→ A(到達点・目標・終点・限界・結果)
to

たとえば、

I went to school.

という場合の school はまさに到着点ですね。

「～と向かい合って[あい対して]」についてですが、わかりやすい例としては

face to face

面と向かい合って

などがあげられるでしょう

そんな to には(「到達点」「～と向かい合って」それぞれ合わせて)10の意味がありません。

①「方向・到達点」の to。

1.[方向・方角]「～の方へ(に)」

(ex) The boy ran to the door.

その男の子は戸口へ走った

Can I have a one-way ticket to Nagoya?

名古屋までの片道切符を下さい

The students threw a stone to the dog.

生徒達は犬の方に石を投げた

Ⓢ throw at a stone とすると「犬にめがけて石を投げる」という意味になる。

2.[到達点]「～まで」「～へ」

(ex) The temperature rose to 35° centigrade.

気温は摂氏35度まで上がった

3.[時間・期間の終点]「～まで」

(ex) The exhibition is open from Monday to Saturday.

展覧会は月曜日から土曜日まで開かれる

4.[範囲・限度[界]]「～まで」「～に至るまで」

(ex) He filled the glasses to the brim.

彼はコップになみなみ注いだ

Ⓢ brim は「(コップ・鉢などの)へり」。to the brim で「なみなみと、あふれんばかりに」。

Tom did the work to the best of his ability.

トムは全力でその仕事をした

His report is to some degree true.

彼のレポートはある程度正しい

☞ to some degree[extent]で「ある程度」。

5.[結果]「～まで」「～に至るまで」

toが「状態の変化の終点」、つまり「結果」を表すことがあります。喜怒哀楽などの感情を表す語とともに用いる用法もこれにあたります。

(ex) Nancy tore the letter to pieces.

ナンシーはその手紙をずたずたに裂いた

☞「結果として破片(pieces)になるまで破った」ということ。

The story moved me to tears.

その話を聞いて私は涙ぐんだ

To their great joy, their son came back safe.

彼らが大変喜んだことには、息子が無事に帰ってきた

☞「to A's+感情を表す名詞」で「Aが〇〇なことには」。

He froze to death.

彼は凍死した

☞「彼は結果として死ぬまで凍った」ということ。

6.[目的・目標・対象]「～のために」「～に対して」

(ex) Father soon came to my rescue.

父はすぐに私を助けにきてくれた

The politician appealed to public opinion.

その政治家は世論に訴えた

②「～と向かい合って(あい対して)」の to。

1.[関係・付着]「～に対して」「～にとって」「～には」

(ex) Is this the key to the door?

これはそのドアの鍵ですか

Fasten this poster to the wall.

このポスターを壁に固定しなさい

2.[適合・一致]「～に合って」「～に合わせて」

(ex) It's not to my liking to live luxuriously.

ぜいたくな暮らしは私の好みに合わない

They danced to the music.

彼らは音楽に合わせて踊った

3.[比較・対比] 「～と比較して」「～に対しては」

(ex) His income is equal to mine.

彼の収入は私のに等しい

I prefer old songs to new ones.

私は新しい歌よりも古い歌の方が好きだ

㊦ 「(古い歌を)新しい歌と対比した場合、古い歌の方が好きだ」ということ。

The score was 3 to 2.

スコアは3対2だった

4.[対立]

(ex) The girls objected to our plans.

女の子たちは僕らの計画に反対した

They sat back to back.

彼らは背中合わせに座った

(24) under

under の『核』のイメージは「～の真下に位置している」です(反意語は over)。



● under

もう少し詳しく言うと under は「広がりを持つ物の真下に(離れて)位置している」ということです。そこから「覆われて[隠れて]下(の)方に」という意味が生じました。

また「上から押えつけられている」イメージがそこから生じ、

「圧迫(されている)・拘束(されている)」

「従属(している)・包含(されている)」

といった意味にまで派生します。

そんな under には、大きく分けて7つの意味があります。

①「下方」の under。

具体的には「～の(真)下に[の・で]」「～のふもとに」といった意味になります。

(ex) The ship passed under the bridge.

船は橋の下を通過した

☞ below the bridge だと、「橋の下を[に・で]」という意味以外に、「橋より下流に」という意味にもなりうる。

The accident happened under my eyes[nose].

目の前で事件は起こった

☞ below one's eyes は「眼下に」。

②「内側」の under。

具体的には「～の中に」「内側に」「表面下に」「～に覆われて」「(土地が)～を植えられて」といった意味になります。

☞「覆われるように下にある」場合は、「接触して」いても under が用いられる。

(ex) The nurse injected under the skin.

看護師は皮下注射をした

The student held a book under his arm.

その学生は本を1冊小脇に抱えていた

She hid her face under the blanket.

彼女は毛布の下に顔を隠した

This field is under corn at present.

この畑には現在トウモロコシが植えてある

③「(基準より)下位」の under。

具体的には「(数・量が)～未満で[の]」「(地位・価値などが)～より下で[の]」「より劣る」といった意味になります。

☞「～未満で[の]」の under は less than で言い換えられる。日本語の「A以下の」は、Aの値ちよほどの場合を含むので、この under とは一致しない。

(ex) It cost under three thousand yen.

それは3千円かからなかった

The man was here for under an hour.

その人がここにいたのは1時間足らずでした

There were many children under 10 years of age.

10歳未満の子供達がたくさんいた

㊦「10歳以下の子供」という場合は children of [aged] 10 and under と言う。

ちなみに be under age は「未成年である」。

Five boys were under John in the test result.

5人の者はテストの成績がジョンより悪かった

④「圧迫(されている)・拘束(されている)」の under。

1. 「～を背負って」

(ex) The climbers had to walk under a heavy load.

登山者達は重い荷を負って歩かなければならなかった

2. 「(重荷・負担・圧迫など)を負って、のために」

「(刑罰・試練など)を受けて」

「(義務・責任・拘束など)のもとに[で]」

(ex) The old bridge may give way under heavy traffic.

その古い橋は交通量が多いと崩れ落ちるかもしれない

The people groaned under tyranny.

人々は圧政に苦しんだ

The prisoner was under sentence of death.

その囚人は死刑の宣告を受けていた

All players are under (an) obligation to keep the rules.

選手全員がルールを守る義務がある

⑤「従属(している)・影響(を受ける)」の under。

1. 「(支配・監督・保護・指導など)のもとに」

「～の影響を受けて」

(ex) I fell under their influence[spell].

私は彼らの影響を受けた[魅了された]

Everything is under control.

万事うまくいっている[掌握している]

He did it under the influence of alcohol.

彼がそれを行ったのは酒の勢いだった

2. 「(条件・事情のもとで)」

(ex) We are forced to accept it under present conditions.

現況ではそれを受け入れざるを得ない

It can't be helped under[in] these circumstances.

こういった状況のもとでは仕方がない

⑥ 「進行中」の under。

具体的には「～中で(の)」といった意味になります。

(ex) under discussion[examination, consideration]

討論[試験・考慮]中

The road is under repair.

その道路は修理中だ

The building has been under construction since last year.

その建物は去年から建設中だ

⑦ 「包含(されている)」の under。

1. [(本・記事・情報などの)分類・区分] 「～の(項目)の中に」

(ex) See under T.

Tの項を見よ

Whales come under (the heading of) mammals.

クジラは哺乳(ほ)動物に属する

2. 「(偽装・口実のもとに)」「～に隠れて」

「～という名で」「～の形をとって」

(ex) under an assumed[a false] name

偽名を使って

under (the) cover of night

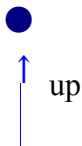
夜に紛れて

under pretense of ignorance

無知を装って

(25) up

up の『核』のイメージは「(下から)上に向かう動き」です。



(ex) I climbed up the tree.

私はその木に登った

また、「(下から上への動き)」以外に、位置的に「上[上流・北]に」「～をのぼったところ[で]」という意味もあります。

(ex) My office is up these stairs.

私のオフィスはこの階段を昇ったところにあります

The plane flies 10,000 feet up.

その飛行機は高度1万フィートを飛行する

There was a little town up in the mountains.

山間に小さな町があった

He's up in his study.

彼は書齋に上がっている

My brother lives up in New Jersey.

兄は北の(方の)ニュージャージーに住んでいる

ただやはり up の基本は「下から上への」動きであり、それをイメージさせるいろいろな場面で up は用いられます。具体的には

「低いところ → 高いところ」

「下流 → 上流」

「開けた所 → 奥地[内陸]」

「水中(地中) → 水表・岸[地表]」

「地上 → 空中」

「一階 → 二階[階上]」

「座っている[寝ている]姿勢 → 立った[起き上がった]姿勢」

等、全て up で表されます。英文で例をあげてみましょう。

(ex) jump[fly] up

跳上がる[飛び立つ]

She took up a pen.

彼女はペンを手に取った

They pulled a boat up onto the beach.

彼らは舟を浜へ引き上げた

Up you come!

上がってこい

(Hold your) Hands up.

手を上げろ

The moon came up.

月が出た

We followed the river up to its source.

我々はその川をさかのぼって水源にまで至った

He looked up at me.

彼は顔を上げて私を見た

I got[stood] up.

私は起き[立ち]上がった

She sat up in bed.

彼女はベッドで上体を起こした

このような地理や空間上のことはもちろん、そこから比喩的に

「(速度・大きさ・音量・明るさなどが)増して、強まって」

「成長して、育って、大きくなって」

「(地位・価値・程度などが)高まって、上がって」

といった意味でも用いられます。これも例をあげてみましょう。

(ex) speed up

速度を上げる

grow up

成長する

talk up

大声ではっきり話す

move up in a firm

会社で昇進[出世]する

Turn the radio up a bit.

ラジオの音量を少し上げてください

The toothache made my face swell up.

歯痛のため顔がはれ上がった

My grandparents brought me up.

祖父母が私を育ててくれた

go up in the world

出世する

pump up a tire

タイヤに空気を入れて膨らませる

Hurry up!

急げ

The fire burned up.

火は燃え上がった

更に様々なイメージが拡張して(比喩的に)用いられる up の用法を見ていきましょう。

①「(比喩的な)上げる」の up。

例をあげると、pick up A は「Aをつまみ[ひろい]上げる」が基本ですが、そこから以下のような意味へ派生します。

(ex) I'll pick you up at the hotel.

ホテルまで君を車で迎えに行つてあげよう

☞「ホテルで君を車中に拾い上げる」ということ。

I picked up the smoking habit.

喫煙の習慣がついてしまった

☞「習慣・癖等を拾い上げる → 身に付ける[付く]」。

She picked up a little French.

彼女は(耳で聞いて)片言のフランス語を覚えた

☞「言語等を拾い上げる → (耳学問で)覚える、身に付ける」。

②「良い」の up。

例をあげると、dress up で「正装する[させる]」「飾りたてる」という表現がありますが、これは up の「下→上」のイメージが「悪い→良い」へと拡張したものです。日本語でも「良い」を「上等な」などと表現するので理解しやすいはず。同じ使い方に brush up(ブラシをかけてきれいにする・知識・技量を磨き直す、勉強し直す)、polish up(磨き上げる) などがあります。

(ex) She had her hair all dressed up in ribbons.

彼女は髪をリボンで飾り立てた

look up to A(Aを尊敬する) という表現の up にも、「上=良い」というイメージが込められていると言えます。

また「上=良い」がわかると、「不活発→活発・元気」も up で表せるのも理解できるでしょう。

(ex) The coach cheered the players up to victory.

コーチは選手を励まして勝たせた

His presence brightened up the party.

彼が出席したのでパーティーが盛り上がった

Cheer up!

元気を出しなさい

All the town is up.

町じゅうが沸き立っている

His anger was up.

彼はかんかんに怒っていた

③「接近・出現」の up。

例をあげると、come up は「近づいてくる」、show up は「姿を表す」という意味ですが、これらの up は「下→上」のイメージが

「遠い→近い・接近・到達」

「(目の前に)ない→(目の前に)現れる・生じる」

へと拡張したものです。

(ex) He came up to me.

彼はずっと私の所まで来た

Go ahead. I'll catch up soon.

先に行ってください。すぐに追いつきますから

I followed up the man.

私は見失わないようにその男の後ろを追った

I try to keep up with the times.

時代[時勢]に遅れないでいるよう努めています

I hope I can live up to the expectations of the voters.

投票してくれた人々の期待に添いたいと思っています

④ live up to A(期待など)で「Aに沿う」だが、この up も「近づいている」という「接近」の up。

What's up?

何が起こったのですか

=What's the matter?

The question came up for discussion.

その問題は議題にのぼった

The police have turned up little information about the criminal yet.

警察は犯人についての情報をまだあまり掘り出していない

④ turn up は「ひっくり返して(表に)出す → (事実などを)発見する、探し出す」となる。

He made up a convincing excuse.

もっともらしい口実をでっちあげる

④ make up A(嘘など)で「Aをでっち上げる」だが、この up も「現れる[出現]」を表している。

He's (well) up in dairy production.

彼は乳製品の生産には詳しいんだ

He is (well) up on politics.

彼は政治に詳しい

④ 「物事に近い → 物事をよく知っている[精通している]」となった。

④ 「きちんと、しっかり」の up。

例をあげると、tie up は「縛り上げる」という意味ですが、up は「up = 接近」のイメージが更に拡張して「あるもの同士を(しっかり・きちんと)一緒にする」という意味へと発展します。これは日本語でも「ファスナーを上まで閉める → ファスナーをしっかり閉める」などと言いますから類推しやすいでしょう。

(ex) We locked up our house and went out.

私たちは家の戸締まりをきちんとして出かけた

Tie up the package.

荷物をしっかりゆわえなさい

pack up

(旅行などの)荷作りをする

Gather up your things.

持ち物をまとめなさい

She folded up the copy of the document.

彼女は書類のコピーをきちんと折りたたんだ

⑤「活動・目標・限度・容量などへの接近・到達」の up。

●(活動・目標・限度・容量)

↑
up

上の図のように、「活動・目標・限度・容量などへの接近・到達」を up が表すことがあります。よく「準備運動」のことをウォーミングアップと言いますが、これは「体を温めて、活動ができる状態に近づく[到達する]こと」です。この up の例をあげてみましょう。

(ex) set up vibrations

震動を起こす

start up the engine

エンジンをかける

そして更に「限度・容量にまで達する → 完全に、全部、やり終える」という意味にまで派生します。いくつか例をあげておきましょう。

(ex) She ate up the cake.

彼女はケーキを全部食べてしまった

We added up the bills.

請求書を全部合計した

First of all, we need to dry up terrorism's funding sources.

まず第一にテロリストの資金源を完全に枯渇させる必要がある

The fire burned up all the houses.

その火事は全ての家を焼き尽くした

At last I was able to pay up my debts.

ついに借金を払いきれた[完済できた]

My mother cut up the tomato.

母はトマトを細かく切った[切り刻んだ]

Tim tore the letter up.

ティムはその手紙をずたずたに引き裂いた

④ tear - tore - torn で「引き裂く、破る」。

clean up

(すみずみまできれいに)片付ける

shut up

締め切る、完全に閉じる

「時間切れ[終了]」のことを「タイムアップ(Time's up)」と言いますが、これは「時間が限度にまで到達した」ということで「おしまい、もう終わり」という意味になるのです。「あきらめる」という意味の give up も「(意欲・努力といった)与えるものがなくなつて(限度に達して)もうおしまい→あきらめる」となつたのです。このような「終」のような「終わり」を示す up の例をいくつかあげてみましょう。

(ex) It's all up with her.

彼女はもうだめだ[万事休すだ]

My annual leave was up.

私は年次休暇を全部使ってしまった

④名詞の leave には「①休暇②許し」という意味がある。

(26) up to

up to の『核』のイメージは「up + to」です。

そんな up to には(be up to の用法を含め)大きく分けて4つの意味があります。

①「距離・時間・程度・数量」の up to。

これは「(限度などへの)接近」を表す up に、(到達点を示す) to がついたものと考えればいいでしょう。具体的には「(最高[最大]で)~まで」「~のところまで」といった意味になります。

(ex) The man dragged his chair up to the fire.

その男は火のところまでいすを引きずっていった

Up to a point, this is true.

ある程度までこれは本当だ

Up to five people can participate in this game.

(最高[最大]で)5人までがこのゲームに参加できる

②be up to A。

1. 「A(悪事など)をしている、企んでいる」

これは「(活動などへの)接近」を表す up に (目的を示す) to がついたものと考えればいいでしょう。

(ex) What has she been up to?

彼女は今まで何をしていたのか

He is up to no good.

彼は何か良からぬことをしている[しようとしている]

2. 「A(人)の責任である」「A(人)次第である」

これも「接近」を表す up に to がついたものです。「(決定の)権利・責任がAに近づく」ということです。

(ex) It's up to you.

あとは君にまかせるよ

3. 「A(仕事など)に耐えられて、Aができる」「A(人)に匹敵して」

be up to A が否定文・疑問文で上記の意味になることがあります。これは、「(活動などへの)接近(=その能力・準備がある)」を表す up に to がついたものです。

(ex) Is Jack up to the job?

ジャックにその仕事をやるだけの力があるの

He is not up to his sister as an artist.

彼は芸術家としては姉に及ばない

(27) with

with の『核』のイメージは「**～と一緒にいる**」、つまり「**同伴[随伴]**」です。
そんな with には、大きく分けて10の意味があります。このうち、①～③で英文中の with の約70%を占めます。まずこの3つの意味・用法を頭に入れるところから with はスタートしてください。

①「同伴[随伴]」の with。

これは『核』のイメージそのものですね。具体的には「**～といっしょに**」「**～と共に**」といった意味になります。

(ex) Jack works with his father.

ジャックは彼の父と一緒に働いている

ただ、おなじみだけにいろいろな応用形があります。

1.[時間的な同伴]

with が「時間的な同伴」を表して「**～につれて(と共に、ごと、に伴って)**」という意味になることがあります。

(ex) My father rises with the sun.

父は日の出と共に起きる

My husband got kind with age.

夫は年と共に親切になった

2.[賛同]

また「意見・考え等が一緒」というところから、「**～に賛成して**」という意味にもなります。

(ex) I am [=agree] with you all the way.

私は全くあなたの案に賛成である

3.[調和・一致]

更に「共にある[いる]」というところから、「**合っている**」「**調和している**」「**一致している**」という意味にもなります。

(ex) The green curtains don't go with the red carpet.

その緑のカーテンは赤のカーペットと合わない

會 go with A で「(物と物・色と色などが)調和している」。match A で言い換えられる。

4.[所属]

(ex) He has been with a security company for ten years.

彼は警備会社に10年勤務している

上例のように with は「(組織などと)一緒にいる → ~に所属[勤務]している」となることもあります。

②「所有・携帯」の with。

「AがBと一緒にいる」場合、AとBの間に所有関係が発生することがあります。その場合、「AがBを持っている」という意味が with に生まれます。具体的には「~を持った」「~を身につけて」といった意味になります。これはカンタンに言えば「having ~ (~を持っている)」で言い換えられる with です。

(ex) I prefer the dress with the collar.

私はえりのあるドレスのほうが好きである

上の英文でも the dress with the collar は「えりを持ったドレス → えりのあるドレス」となるわけです。

(ex) I saw a girl with blue eyes.

青い目の少女を私は見た

上の英文でも a girl with blue eyes は「青い目を持った少女 → 青い目の少女」となります。

③[手段[方法]・原因]の with。

これは「~を持っている → ~をもって[して] → ~でもって・~のおかげで」と意味が拡大した with です。

(ex) Bess tied the package with a yellow ribbon.

ベスはその包みを黄色いリボンで(もって)結んだ

His hands froze with the cold.

彼の手は寒さで[のおかげで]凍った

④「動詞 + A with B」型。

ある動詞の後に「A with B」という形が続く場合、その動詞の意味は次の2つに分類することができます。

1. 「AにBを与える」

(ex) provide A with B AにBを与える

furnish A with B AにBを与える

2. 「AをBと結びつける」

(ex) combine A with B AをBと結び付ける

associate A with B AをBと結びつける、関連させる

もちろん下の英文のように、形は「動詞 + A with B」型でも、上のルールに当てはまらないようなものもあるので注意が必要です。

(ex) He struck a ball with a bat.

彼はバットでボールを打った

罫上例の with は、単に「～で(もって)」という「手段」を表しているだけ。

I visited the town with my wife.

私は妻とその町を訪れた

罫上例の with は、単に「～と一緒に」という「同伴」を表しているだけ。

⑤「with+O+C」構文。

これは分詞構文の一種(独立分詞構文と呼ばれる)なのですが、「with O C」構文として覚えてしまった方がカンタンです。「OがCの状態」が訳し方の基本です。

(英文中のwithを含む前置詞句が)with O C構文かどうかは、以下の2点が見極めのポイントになります。

1. 「with+名詞」の後ろに「形容詞」「分詞」「副詞」「前置詞+名詞」のいずれかがある。
2. 「(withの後ろの名詞)」とそれら語句との間に「主語と述語の関係」が成立している。

with O C構文の基本は「OがCの状態」。それでうまく訳せない時は、「時(～の時、(し)たら)」「理由(～ので)」「条件(もし～)」「譲歩(～けれど、としても)」「そして～(する)」「～しながら」の6種類のうちから文脈に則して適当なものを選ぶといいでしょう。

with + 名詞 +	{	「形容詞」 「分詞」	: 「OがCの状態」
		「前置詞+名詞」	
		「副詞」	
[主語]		[述語]	

実際の例文で見てください。特に「C」のバリエーションに注目して下さい。

(ex) with the ribbon flying in the wind 風にリボンをなびかせながら
[現在分詞]

with one's mouth full 口に食物を頬張った状態で
[形容詞]

with one's hands in one's pockets 手をポケットに入れた状態で
[前置詞+名詞]

with the tape recorder on テープレコーダーがオンになっている状態で
[副詞] ⇨ テープレコーダーで録音しながら

⑥ 「関係[連]・対象」の with。

具体的には「～に関して」「～に対して」といった意味になります。

(ex) Something is wrong with this machine.

この機械(に関して)はどこか具合が悪い

☞ Something is wrong with A で「Aはどこか具合が悪い、故障している」。

There is something wrong with A で言い換えられる。

The problem with computers is that they can cause health problems.

コンピュータに関する問題は、それらが健康問題を引き起こす可能性があることだ

⑦ 「条件」の with。

具体的には「もし～があれば」といった意味になります。

主節に「推量の助動詞(will[would], may[might], can[could])」があることが多いのが、この意味になる with の特徴です。

(ex) I would be able to move the stone with this machine.

もしこの機械があれば、その石を移動させられるのだが

⑧ 「with+抽象名詞」。

「with+抽象名詞」は副詞化するというルールがあります。たとえば with に「簡単さ、容易さ」という抽象名詞 ease がくっついて with ease となると、easily つまり「簡単に」という副詞と同じ意味になります。これは「簡単さをもって→簡単に」となったわけです。

以下にそんな、副詞 1 語と同じ意味になる「with+抽象名詞」の例をあげてみましょう。

(ex) with difficulty	= barely	やっとのことで、かろうじて
with success	= successfully	首尾よく
with diligence	= diligently	勤勉に
with kindness	= kindly	親切にも
with care	= carefully	注意深く
with rapidity	= rapidly	素早く
with fluency	= fluently	流暢に
with calmness	= calmly	落ち着いて
with energy	= energetically	精力的に
with reserve	= reservedly	遠慮して
with warmth	= warmly	暖かく
with vigor	= vigorously	勢いよく

⑨ 「対立・対比」の with。

with にこのような意味があるのを不思議に思う人がいるかもしれませんが、実は意外にも with は元々「～に反対[対立]して」というのが原義だったのです。その名残の意味が「対立・対比」の with です。具体的には「～を相手に」「～に対して」といった意味になります。

(ex) We argued with them.

私たちは彼らを相手に議論した

If you compare British English with American (English), we can find many differences.

英国英語を米国英語と比べると多くの違いに気付く

🔗 compare A with[to] B で「AをBと比較する」。

⑩その他

- 1.with all A 「Aにもかかわらず」 =in spite of A
=despite A
=for all A

(ex) With all his faults, I love him still.

欠点はあるけれど、私はまだ彼を愛しています

With all his wealth, Mr. Brown is not happy at all.

あれだけの富がありながら、ブラウン氏は全く幸福でない

亅ただし、「原因・手段」を表す with に「all+名詞」がくっついただけの

with all～もあるので、そのあたりは区別ができるようにしておこう。

(ex) With all this work to do, I have no idea when I will leave the office.

こんなにするのがたくさんあるので、いつ会社を出るかわからない

- 2.with that 「こう[そう]言って」「こう[そう]やって」

(ex) With that, my father left the room.

父はこう言って部屋を出て行った

- 3.start[begin] with A 「Aから始める」

(ex) For background, you'd better start with the newspaper files.

背景を知るために新聞のファイルから(調査を)始めた方がいい

(28) within

within の『核』のイメージは「(～の)範囲内」です。

in との違いはと言えば、in よりも、明確に境界を限るイメージが強いと言えます。

そんな within には、大きく分けて3つの意味があります。

- ①「場所」の within。

具体的には「～の内部[内側]に」といった意味になります。

(ex) Keep within doors.

屋外へ出るな

There is a disagreement within the Government.

政府内に意見の不一致がある

② 「期(時間・距離) の within。

具体的には「～以内で[に]」といった意味になります。

(ex) Stay within shouting distance of me.

私が叫べば聞える所にいなさい

She lives within five mile of[×from] the station.

彼女は駅から5マイル以内の所に住んでいる

The train will arrive within an hour.

列車は1時間以内に着くだろう

within walking distance

歩いて行ける所に

③ 「程度・範囲」 の within。

具体的には「～の範囲内で[に]」といった意味になります。

(ex) You should do it within the law.

法の許す範囲内でそれをすべきだ

We live within our income.

自分の収入の範囲内で生活しています

It is not a task within his powers.

それは彼にできる仕事ではない

(29) without

without の『核』のイメージは「(～を)同伴しない」「～を持っていない」です。

會要するに with の反意語と覚えてしまえばいい。

そんな without には、大きく分けて3つの意味があります。

① 「欠如・不所持」 の without。

具体的には「～がなく」「～なしに[の]」「～が欠けた」といった意味になります。

(ex) I went out without my overcoat.

オーバーなしで外出した

Without health happiness is impossible.

健康を抜きにしては幸福はありえない

②「不行動」の without.

具体的には「～しないで」「～せず(に)」といった意味になります。without doing～という形になることが多いですね。

(ex) She passed by without seeing me.

彼女は私を見ないで通り過ぎた

He went out without being noticed.

彼は気づかれずに外出した

③「仮定法」の without.

具体的には「～がなければ」「～がなかったら」といった意味になります。

(ex) Nobody could live without water.

水なしではだれも生きられない

Without your help, I would have failed.

君の援助がなかったら私は失敗していただろう

最後に without を用いた慣用表現をいくつかあげてみましょう。

1.It goes without saying that S+V～「～は言うまでもない」

=Needless to say, S+V～

(ex) It goes without saying that he is right.

彼が正しいのは言うまでもない

2.without so much as doing～「～することさえせずに」

(ex) She went out without so much as saying good-bye.

彼女はサヨナラも言わずに出ていった

3.do[go] without A「Aなしで済ます、Aなしでやっていく」

(ex) People in the disaster area had to do without enough food or water.

被災地の人々は十分な食糧も水もなしでやって行かねばならなかった

(30) 「Aに関して(の)」のいろいろ。

「Aに関して(の)」 「Aについて(は)」 という意味になる前置詞には、以下のようなものがあります。

on A
about A
as to A
concerning A
concerned with A
regarding A
in[with] regard to A
with respect to A
as for A

このうち about が最も一般的な語です。

on は内容が専門的で高度な場合に用います。つまり同じ「について」でも about は、「**拡散的(に)周辺**」がその『核』のイメージなので、talk about A といった場合、「A について(話題を広げて)あれこれ話す」という「**拡散的**」なニュアンスになります。on の場合、「**接触**」がその『核』のイメージなので、あるテーマについてより密に、つまり「**専門的な**」という意味が生じるのです。

(ex) 「日本についての本」 → a book about[on] Japan

☞ about では一般的な内容。on では専門的内容を暗示。

「核融合についての論文」 → a paper on[×about] nuclear fusion

☞論文は専門的なので通例 on を用いる。

of は about としばしば交換できます、of は(全般的に)軽く触れる場合に用いられます。talk of A といった場合、「A についてちょっと話す」といったニュアンスになります。over は「**～をめぐる**」の意で、しばしば(長期にわたる)**意見の対立・不一致**を含意します。

concerning[concerned with], with regard[respect] to は about, on の堅い語です。

as to は、書き言葉で多く用いられ、疑問詞節が続く場合に好まれますが、それ以外では

about, on, ofが普通です。

as forは、既に出た話題に関連して別のことを述べる場合に用います。通例、文頭か節頭に置かれます。時に軽蔑や無関心を含意します。

(ex) Nancy has few close friends. As for [=As to] her brother, he is always surrounded by friends.

ナンシーには親友がほとんどいない。彼女の兄はどうかと言えば、いつも友人に囲まれている

(31) 「→」 「←」 といった記号で表せる前置詞。

① 「→」 で表せる前置詞。

「→」 で表せるのは to, into, toward、それから「～に向かって」という意味の for などです。for の例文を一つあげてみましょう。

(ex) Mr. Yamashita left for Hiroshima.

山下さんは広島に向かって出発した

☞このように「～に向かって」という for は、leave や start などとセットで用いることも多い。

for と to の違いは、for は単なる「(目的[標]に向かっての)方向」を表すだけなのに対して、to は「方向」+「到達[着]点・目標」を表すということです。上例の場合、山下さんは「広島に向かった」と言っているだけで、実際に広島に着いたかどうかはわかりません。しかし、

Mr. Yamashita went to Hiroshima.

というと、「実際に山下さんは広島に行った」ということになります。また、

① I gave the book to Tom.

ボクはトムにその本をあげた

② I bought a book for Tom.

ボクはトムに本を買ってあげた

という場合、①では Tom は到達点を表すわけで、確実に「その本」は Tom に渡ってい

るとわかりますが、②ではもしかすると、途中でその本を落としてしまって、あるいは気が変わって結局あげ(られ)なかったかもしれないことが考えられるのです。

また for の「向かって」という意味には、多分に意識的なものが含まれます。つまり何かに「向かう」というからには、それなりの目標・目的があったり、あるいは意識がそちらに引きつけられていたりすることが含意されるのです(たとえば「~さんのために」といったような)。to にはこういったニュアンスは含まれません(A to B は「AからBへの移動」を表すのみ)。

「方向」を表す前置詞に toward(s) もありますが、toward(s) も for と同じように「方向」を表すのみで「到達点」を含みません。for との違いはというと、for は「~さんのために」「~を求めて[目的として]」という「目的[標]」がそこに含意されるのに対し、toward(s) は純粋に「~の方向へ[に]」という意味を表すのみであるという点です。

(ex) Nancy walked toward the window.

ナンシーは窓の方へ歩いて行った

上例の場合、ナンシーが実際、窓まで行ったかはわかりません。

「→」で表しうる前置詞にはもう一つ at がありますが、at の場合、元々のイメージが「(一)点」です。場所・時・空間などの、さまざまな「点」を表します。そこから「方向」、つまり「点([目標]に向かって)」イメージが生まれ、その結果「~をめぐらして」という意味が生じました。意図的な目標を示すため、しばしば「攻撃・敵意・非難」などの意味を含むこともあります。

(ex) They shot at the target.

彼らは的をめぐらして撃った

He pointed at[to] the house.

彼はその家を指した

上例の場合、at は家そのもの、to は家の位置する方向を指します。

for についても一言説明をつけ加えると、for A で「Aを求めて」という意味があることはよく知られていますが、「Aを求めて」いるということは、現実にはAはそこにならということでもあります。つまり for は「(現実にはまだ目の前にはない)Aを求めて」ということになります。だから search for A は「Aを捜す」という意味になります。

(ex) The police are searching for the missing child.

警察は行方不明になった子を捜している

We searched for the lost dog

我々は行方不明の犬を捜した

search A といった場合は、Aが現実にそこにあり、そのAを(搜索場所として)調べるということになるのです。

(ex) I've searched all the drawers.

私は引き出しを残らず捜した

The police searched the house.

警察は家宅搜索をした

I searched my pockets for the key.

カギはないかとポケットを捜してみた

The policeman searched him.

警官は彼の身体検査をした

會実には search A と search for A についての考え方は「自動詞」と「他動詞」の観点からも説明できる。

search A という場合、A は search の目的語であり、この search は他動詞ということになる。他動詞が SVO を作る場合、その意味の基本は

「Sが[は]Oに対して働きかけ[行為・影響・注目など]を行う」

ということ。言い方を変えれば、「Sの働きかけ[行為・影響・注目など]が(直接的・全面的に)Oにまで及ぶ」ということなのである。とすると

The police searched the house.

という場合、「(警察が)搜索する」という行為が、「その家」にまで(直接的・全面的に)及んだということになる。したがって「警察はその家を家宅搜索した」という意味になるのである。

これが search for A を用いて

The police searched for the house.

という場合、for という前置詞に阻(はば)まれ、「搜索する」という行為が「その家」にまで(直接的・全面的には)及んでいないことになるのだ。そこで(for は「～に向かって」という方向・目的を表す前置詞なので)、「その家に向かって[を求めて]搜索を行った」、つまり「警察はその家を捜した」となるのだ。

他の例をあげると

- ① The policeman shot the criminal.
- ② The policeman shot at the criminal.

①の場合、「撃つ」という行為が「その犯人」にまで(直接的・全面的に)及んだ。つまり「(銃であれば)弾が犯人に当たった」ことが予測できる。
ところが②の場合、at(「～めがけて」という前置詞)が shot の後ろに割り込んでいるため、「犯人めがけて撃った」と言っているだけで、実際にその弾が当たったかどうかはわからないのである(当たっていないかもしれない。その後の文脈次第)。

② 「←」で表せる前置詞。

次に、「←」で表せる前置詞として from, out of などがあります。特に from は「動作の起点・出発点」を表します。

(ex) We walked from the station to the city hall.
私達は駅から市役所まで歩いた

それに対し、out of は「通過点」を表します。

(ex) The cat came from[out of] the room.
そのネコは部屋から出て来た

上例で、from を使えば、部屋を「起点」としていることを強調し、out of を使えば(部屋の中から外への)「動き」を強調することになります。

それから「動詞 + A from[out of] B」といった場合、from[out of] は「←」なので「A が[を]Bから離れる[離す・別れる]方向に向ける」がこの形の意味の基本になります。

◎前述の talk A(人) out of doing～ もこのパターン。

前置詞に関するその他のポイント

1. 二重前置詞。

2つの前置詞が連続するものを二重前置詞と言います。後の前置詞が導く句(つまり「前置詞+名詞」)が前に位置する前置詞の目的語となります。

前置詞 + 前置詞+名詞

[前置詞の目的語]

(ex) We heard the children's shouts of joy from across the garden.

子供たちの歓声が庭の向こうから聞こえた

She was chosen from among the volunteers.

彼女は志願者の中から選ばれた

The sound of laughter came from behind the curtain.

カーテンの後ろから笑い声が聞こえた

He took a box from under the counter.

彼はカウンターの下から箱を取り出した

I have been up since before sunrise.

私は日の出前から起きています

They didn't see her till after the meeting.

彼らは会議の後まで彼女に会わなかった

2. 意味や用法の紛らわしい前置詞。

(1) ① in front of 「～の前に、正面に」 ⇔ at the back of, behind

② opposite 「～に向かい合って」「～の向かい側に」 = across from

(ex) My house is just opposite the hospital.

私の家は病院の真向かいです

③ before 1. 「～の面前に」

(ex) He sat before me.

彼は私の前に座った

會物や建物に関して「…の前に」という場合は通例 in front of を用いる。

2. 「～より（時間的に）前に」 ⇔ after

(ex) He did not come back before two.

彼は2時間前には帰らなかった

(2) ① in 「①～後に ②～かかって」（主に未来のことについて用いる）

② after 「～後に」（過去のことについて用いる）

③ within 「～以内に」

(3) ① until[till] 「～まで（ずっと）」（継続を表す動詞と共に用いる）

② by 「～までに（は）」（完了・期限を表す動詞と共に用いる）

會 「by (the time)」と「until[till]」の使い分け方。

① by は、「～までには」という意味の前置詞。同じ「～までには」という意味でも「by the time」は接続詞なので後ろに「S+V～」をとる。

② それに対して「until[till]」は「～まで」という意味。「until[till]」は前置詞、接続詞両方の品詞がある。「until[till]」の後ろに「名詞」があればその「until[till]」は前置詞、「S+V～」があれば接続詞と判断すればいい。

③ 「by」と「until[till]」の使い分け

1. 「by(またはby the time)」は、

(a) 後ろには「期限」を表す語句が来る。

(b) 主節に、「完了・達成」の意味を表す動詞が来るのが特徴。

(ex) I shall have finished it by tomorrow.

明日までにはそれを終えてしまっているだろう

The work will be finished by 8 o'clock.

仕事は8時までには終わるだろう

Will you finish it by tomorrow morning?

明朝までにそれをやり終えてくれませんか

Daylight had come by the time the meal was over.

食事が終わるころまでには夜が明けていた

たしかに上の例文でも finish, be finished, had come は「完了・達成」の意味を表す動詞であり、by (the time)の後ろには「期限」を表す語句がある。

2. 「until[till]」は

(a)後ろには「継続の終点を示す」語句が来る。

(b)主節には「継続」の意味を表す動詞が来る。

のが特徴。

(ex) He will stay here until next Sunday.

彼は次の日曜日までずっとここにいる

Wait until tomorrow morning.

明日の朝まで待ちなさい

Until now I have always been very happy.

今まで私はいつもとても幸せでした

たしかに上の例文でも、stay, wait, (always) been は「継続」の意味を表す動詞であり、until の後ろには「継続の終点を示す」語句がきている。

(4)① for 「～の間」 (数詞や some, fewなどを伴って期間の長さを表す)

(ex) I have lived here for three years.

私は3年間ここに住んでいる

② during 1. 「～の間(ずっと)」 (具体的な出来事を伴って特定の期間を表す)

2. 「(ある期間の間の)ある時に」

(ex) I stayed there for a week during the summer vacation.

夏休みの間1週間そこに滞在した

During[×For] my stay in London, I met an old friend of mine.

ロンドンに滞在中に、旧友に会った

During the night, the snow changed to rain.

夜中に雪は雨に変わった

③ through(out) 「～の初めから終わりまで」

☞期間全体に渡って継続することを強調する。duringの強調形と考えてもいい。

throughよりthroughoutの方がより強調する度合いが強い。

(ex) I had to sit through the long lecture.

私はその長い講義の終わりまでずっと座っていなければならなかった

☞ whileも「～の間」という意味になるが、whileは(従位)接続詞なので、後ろに「S+V～」をとる。

(ex) I prepared for the trip while my parents were sleeping.

私は両親が眠っている間に旅行の準備をした

㊦ among も「～の間で(に)」という意味になるが、こちらは「物理的位置関係」や「分布」における意味でのみ用い、「期間」に対しては用いない。

(ex) I saw a house among the trees.

木立の間に家が見えた

It was her first night among strangers.

それは彼女が初めて他人の中で過ごした夜だった

(5) ① beside 「～のそばに」

(ex) Sit beside me.

私のそばに座りなさい

② besides 「～に加えて」「～の他に」

(ex) Besides being a statesman, he is a musician.

政治家である上に、彼は音楽家でもある

(6) ① on A 「(接して)Aの上に、Aに接している」

② over A 「(離れて)Aの真上に」

③ above A 「Aの上の方に、上流に」

㊦ above は、基準になる面(線)より高いことを表し、「真上(over)」とは限らず、「接触(on)」もしない

(ex) above the horizon

水平線上に

Our plane was flying above the clouds.

我々の飛行機は雲の上を飛んでいた

7,000m above sea level

海拔7000メートル

(7) above 「～を超越して」「～できない」 =beyond～

(ex) The lecture was above me.

その講義は私を超越している → 私には理解できない

She is above telling a lie.

彼女は嘘をつくことを超越している → 決して嘘はつかない

(8) after 「～を求めて、追跡して」「～にならって、ちなんで」

(ex) The police were after the thief.

警察はその泥棒を追っていた

He was named John after his father.

彼は彼の父親にちなんで名付けられた

☞ be named A after B で「BにちなんでAと名付けられる」。

(9) ① for+全体の金額

② at+ 1個当りの金額/price

③ by+単位

(ex) I bought these oranges for 500 yen.

500円でこのオレンジを買った

I bought these oranges at 50 yen apiece.

1つ50円でこのオレンジを買った

I sold the car at a reasonable price.

手ごろな値段でその車を売った

I was paid by the day.

私は日給で給料を支払われた

(10) ① toward 「～の方へ」 (単に方向を示す)

② to 「～に」 (具体的な到着点を示す)

③ for 「～に向かって」 (leave, start などと共に用いられ目的地を示す)

(11) but 「～を除いて、～以外」 ☞以下のような場合に、butが「～を除いて」という意味になる。

=except

① all, every, no, nothing, nobody, anywhere, 最上級

=save

等の後ろに but がくる場合。

② but の後ろにto不定詞、原形不定詞がくる場合。

(ex) They all went out but me.

私のほかは全員出かけた

He finished last but one.

彼は最後から2番目でゴールインした

They had no choice but to leave.

彼らは立ち去る以外どうしようもなかった

He did nothing but study when young.

彼は若い頃勉強ばかりしていた

會副詞の but もある。only と同じ意味で使われる。

(ex) She is but a child.

彼女はほんの子供です

If I could but see her.

彼女に会えさえしたらなあ

會また but for A で「もしAがなければ[なかったならば]」というイディオムも頻出。

(ex) But for this storm, we'd be having a nice party now.

=If it were not for this storm, we'd be having a nice party now.

この嵐がなければ、今ごろは楽しいパーティーをやっているところでした

But for you, everything would have gone well.

=If it had not been for his mistake, everything would have gone well.

彼のミスさえなかったら万事うまく行ったのに

3.群前置詞。

(1)「理由・原因」を表すもの

- | | |
|-------------------|---------------------|
| ① because of A | 「Aのために、Aおかげで」 |
| ② on account of A | 「 " 」 |
| ③ owing to A | 「 " 」 |
| ④ due to A | 「 " 」 |
| ⑤ thanks to A | 「 " 」 |

(2)「目的」を表すもの

- | | |
|------------------------|---------------------|
| ① for the purpose of A | 「Aのために」 |
| ② with a view to A | 「 " 」 |
| ③ with the view of A | 「 " 」 |
| ④ for the sake of A | 「 " 」 |
| ⑤ for the benefit of A | 「 " 」 |

(3)「～にもかかわらず」という意味のもの

- | | |
|-----------------|-------------------------------|
| ① in spite of A | cf; though S + V ~ 「～にもかかわらず」 |
| ② for all A | 會 though は接続詞なので後ろに「S+V」をとる。 |

- ③ with all A in spite of～ の仲間はおくまで前置詞なので
- ④ despite A 後ろには「名詞(の仲間)」しかとれない。
- ⑤ in the face of A

(4) 「～は別として[除いて]」 という意味のもの

- ① apart from A ⇨ apart from には、「①Aから離れて ②Aは別として ③Aだけでなく(Aに加えて)」の3つの意味がある。
- ② aside from A ⇨ aside from には、「①Aは別として ②Aだけでなく[Aに加えて]」の2つの意味がある。

(ex) He lives apart from his family.

彼は家族と離れて暮らしている

apart from the problem

その問題はさておき

Apart from the color, I don't like the pattern.

色だけでなく、模様も気に入らない

(5) 「比較・比例」に関するもの

- ① in[by] comparison with[to] A 「Aと比べて」
- ② compared with[to] A 「Aと比べて」
- ③ in proportion to A 「Aに比例して」

(6) 「～の代わりに」 という意味のもの

- ① instead of A[doing～] 「Aの[～する]代わりに」
- ② in place of A
- ③ on behalf of A

(7) その他

according to A

- ① 「Aによれば」

(ex) According to the paper, there was an earthquake in Mexico.

新聞によれば、メキシコで地震があったそうだ

- ② 「Aに従って、Aに応じて」

(ex) You have only to work according to your ability.

自分の能力に応じて働きさえすればいい

along with A 「Aと共に、Aに加えて」 =together with A

(ex) He ate steak, along with salad and rolls.

彼はサラダとロールパンと一緒にステーキを食べた

apart[aside] from A

① 「Aは別にして、Aはさておき」

(ex) apart from the problem

その問題はさておき

② 「Aに加えて、Aだけでなく」 =in addition to A

(ex) Apart from the color, I didn't like the pattern.

色だけでなく、模様も気に入らなかった

as a result of A 「Aの結果として」

(ex) He was late for the meeting as a result of the accident.

彼はその事故の結果、会議に遅刻した

as to A 「Aに関して」 =about A, concerning A

(ex) They were in agreement as to the basic points.

基本的な点については彼らは合意していた

as of A 「A現在で[の]、A(日時)から」

(ex) the population as of Jan.1,1983

1983年1月1日現在の人口

at the mercy of A 「Aのなすがままになって」

(ex) She was at the mercy of her husband.

彼女の夫のなすがままだった

at the cost[expense] of A 「Aを犠牲にして」

(ex) Are you willing to do it at the cost of your family?

君はそれをやるのに家族を犠牲にしてもいいのか

at the end of A 「Aの終わりに」

(ex) At the end of the meeting, he spoke about the matter.

会議の終わりに、彼はその件について話した

at the risk of A 「Aの危険を冒して」

(ex) Jack saved the drowning child at the risk of his own life.

ジャックは自分の生命を賭しておぼれる子供を助けた

at the sight of A 「Aを見て、見るや否や」

(ex) The man ran away at the sight of a policeman.

その男は警官の姿を見て逃げ去った

beside oneself [with A(感情を表す名詞)] 「[Aで]我を忘れる」

(ex) He was beside himself with joy when he passed the exam.

彼は試験に通ったとき、喜びで我を忘れた

beyond the reach of A 「Aの及ばないところで」

(ex) The jewel is priced beyond the reach of most of us.

その宝石は私たちのほとんどには手の届かない値がつけられている

by means of A 「Aの手段を用いて」

(ex) We mammals breathe by means of lungs.

我々哺乳類は肺によって呼吸する

by way of A 「A経由で、Aのつもりで」

(ex) He went to England by way of France.

彼はフランス経由でイギリスに行った

contrary to A 「Aに反して」

(ex) He acted contrary to our wishes.

彼は私達の期待に反する行動をとった

except for A 「Aを除いて」

(ex) The streets were deserted except for the firemen.

消防士以外、通りには誰もいなかった

in charge of A 「Aを担当している、Aの責任者である」

(ex) Mr. Brown is in charge of the class.

ブラウン先生がそのクラスの担任です

in connection with A 「Aに関連して」 =concerning A

(ex) Let me ask you some questions in connection with the theme.

そのテーマに関して質問させてください

in front of A 「Aの正面に」

(ex) I parked my car in front of the park.

私は公園の前に駐車した

in relation to A 「Aに関して」 =regarding A

(ex) I have a lot to say in relation to the matter.

その件に関して言いたいことがたくさんあります

in the course of A 「Aの間に」 =during A

(ex) He visited Sam in the course of his trip.

彼は旅行中にサムを訪問した

in the face of A 「Aに直面して(も)」

(ex) He was brave in the face of danger.

彼は危険に直面しても勇敢であった

in view of A

① 「Aを考慮して」 = in the light of A = considering A

(ex) In view of the situation, we should adopt the new policy.

その状況を考慮して、新政策を採用すべきである

② 「Aの見えるところに」

(ex) The politician stood in full view of the crowd.

その政治家は群衆からよく見えるところに立った

in spite of oneself 「思わず」

(ex) I burst out laughing in spite of myself.

私は思わず笑い出した

in favor of A 「Aに賛成して、Aの利益になるように」

(ex) I am in favor of that plan.

その計画に賛成です

in addition to A 「Aに加えて」 =besides A

(ex) In addition to good health, he has a good brain.

彼は健康に加えて頭がよい

in honor of A 「Aに敬意を表して」

(ex) We celebrate Mother's Day in honor of our mothers.

私たちは母親たちに感謝して母の日を祝います

in place of A 「Aの代わりに」

(ex) In place of a final exam, I'd like you to write a term paper.

期末試験の代わりに君たちにレポートを書いてもらいたい

in return for A 「Aのお返しに」

(ex) I gave him a present in return for her favor.

私は彼女の好意の返礼に贈り物をした

in terms of A 「Aの観点から」

(ex) We should see the disaster in terms of global warming.

我々は、地球温暖化の観点からその災害を見なければいけない

in company of A 「Aと一緒に」

(ex) I went there in company with him.

私は彼と一緒にそこに行った

in (the) light of A 「Aを考慮して、Aに照らし合わせて」

(ex) The case should be judged in (the) light of these facts.

その件は、これらの事実に照らして判断されるべきだ

in the presence of A 「Aの面前で」

(ex) He made a big mistake in the presence of several VIPs.

何人かの要人の集まっている前で彼は大きなミスをした

in token of A 「Aの印に[として]」 = as a token of A

(ex) He gave his wife a ring as a token of his affection.

彼は愛情の印として妻に指輪を贈った

in want of A 「Aを必要として」 =in need of A

(ex) We are badly in want of water this summer.

今年の夏はひどい水不足だ

on behalf of A =on A's behalf

① 「のために」 [目的・利益]

(ex) Please behave on behalf of me.

私に有利なように行動してください

② 「Aを代表して」

(ex) I went there on behalf of Jim.

ジムの代理でそこへ行った

on the point of A 「Aを(まさに)しようとして」 =on the blink of A

=on the verge of A

(ex) He was on the point of leaving.

彼はまさに立ち去ろうとしていた

prior to A 「Aの前に」 =before A

(ex) The accident happened prior to my arrival.

その事件は私が着く前に起こった

regardless of A 「Aに関係なく、Aにかまわず」 =irrespective of A

(ex) The child climbed the tree regardless of danger.

その子はは危険をものともせずにその木に登った

4.前置詞によって意味や用法が変化するイディオム。

- | | |
|---------------------------|------------------|
| (1) agree with A(人) | 「Aに同意する」 |
| agree to A(計画・提案など) | 「Aに同意する」 |
| (2) be angry with A(人) | 「Aに腹を立てる」 |
| be angry at/about A(事) | 「Aに腹を立てる」 |
| (3) be anxious about A(人) | 「Aを心配する」 |
| be anxious for A(事・物) | 「Aを切望する」 |
| (4) look after A | 「Aの世話をする」 |
| look at A | 「Aを見る」 |
| look for A | 「Aを捜す」 |
| look into A | 「Aを調べる」 |
| look on A as B | 「AをBとみなす」 |
| look over A | 「Aを調べる」「ざっと目を通す」 |
| look up to A | 「Aを尊敬する」 |
| look down on A | 「Aを軽蔑する」 |
| look to A for～ | 「Aに～を頼る」 |
| (5) be tired of A | 「Aに飽きている」 |
| be tired with A | 「Aに疲れている」 |
| (6) be true of A | 「Aに当てはまる」 |
| be true to A | 「Aに忠実である」 |
| (7) part from A(人) | 「Aと別れる」 |
| part with A(物) | 「Aを手放す」 |
| (8) allow for A | 「Aを考慮する」 |
| allow of A | 「Aを認める」 |
| (9) call on A(人) | 「Aを訪ねる」 |
| call at A(場所) | 「Aを訪ねる」 |
| (10) inquire after A(人) | 「Aの安否を尋ねる、見舞う」 |
| inquire into A(事) | 「Aを調べる」 |
| inquire of A(人) | 「Aに尋ねる」 |

(11) compare A with B compare A to B	「AとBを比較する」 「AをBにたとえる」
(12) according to A	①「Aによれば」 ②「Aにしたがって」=according as A =in accordance with A =depending on A
(13) consist of A consist in A	「Aから成る」=be composed of A 「Aの中にある」=lie in A
(14) result from A(原因) result in A(結果)	「Aが原因で起こる」=follow A 「Aの結果に終わる」=end up A
(15) succeed in A succeed to A	「Aに成功する」⇔fail in A 「Aを引き継ぐ」=take over A
(16) deal with A deal in A	「Aを扱う、処理する」 「Aを商う」
(17) apply A to B apply to A apply (to A) for B	①「AをBに適用する、応用する」 ②「AをBに加える、充てる、向ける」 「Aに当てはまる」 「A(人)にB(仕事・訶・擲)を求める、志願する」
(18) interfere with A interfere in A	「A(人)に干渉する、邪魔する」 「A(物事)に口をはさむ」
(19) wait for A wait on A	「A(人)を待つ」 「A(人)に仕える、給仕する」=serve A
(20) attend A attend to A attend on A	「Aに出席する」 ①「A(仕事)に精を出す」 ②「A(話)を注意して聞く」 「Aの世話をする、付き添う」
(21) enter A enter into A	「Aに入る」 「A(仕事等)を始める」
(22) answer A answer for A	「Aに答える」=reply to A 「Aの責任をとる」

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| (23) hear A | 「Aの話を（直接）聞く」 |
| hear of A | 「Aの話を（間接的に）聞く、消息を聞く」 |
| hear from A | 「Aから便りがある」 |
| (24) search A(搜索する場所) | 「Aを搜索する」 |
| search for A(探し物) | 「Aを捜す」 |
| (25) want A | 「Aを欲する」 |
| want for A | 「Aが不足する、Aに困る」 |
| (26) be free of A(料金・税金) | 「Aがない、Aが免除されている」 |
| be free from A(心配・危険・苦痛) | 「Aがない、Aに悩まされない」 |